

カモメおばさんの記(9)



パンを投げている時、あるいはその後で、見に来ている人と話すことが多い。上の写真真赤は赤ん坊を抱かせてもらっている。下は短歌や俳句を作っている土田眞望さんと。



ぼくは谷津の四年生の佐々木です。

三郎さんへ

三郎さんこんにちは。ぼくは今社会で、ひかたや東京のこどもをけんきょうしています。

ぼくが、はじめて三郎さんをしたのは、五十九年の11月のある新聞をみたときです。東京の人に「ワキョウの1家」というたいとるです。

よんでいると「ワキョウ運輸森田三郎さん」と書いていました。

それで先生に見せるとコピーしてくれました。

それを見て、ぼくの友だちが、ひかたのおもいでというものをゆびさしました。それでよんでいくと、さいごに、森田三郎とかいていました。

そして、ぼくは、森田さんは、ひかたとかんげいあるものに、のっているのどうしてかなあと思いました。

それから、2月の8日に、クラスでひかたにいきました。そうすると森田さんに合いました。パンをもらって野鳥にあげました。

このときは、どうもありがどうごさいました。

それから、二、三日たつて、先生に、とりもどせぼくたちの海という本をよんでもらいました。

その本でたくさんのお話を、しりました。

いまのひかたは、国のものたということや、森田さんが、なほ回もなほ回も、おんをいわれても、ゴミひろいをしたことや、しもんがきえてしまつたことや、車をもらつたことや、毎日、苦しい生活のなかで、はたらいては、ひか

たつては、ゴミをひろうということや、ねはて、ねはて、ゴミひろいをしてきた森田さんを、そんけいしています。

でも、それよりも、かんしんするのは、足のほねを、おつてもかんはて、ゴミひろいをする、ていうことは、ふつうの人では、できないと思う。

ぼくも、てつたいたいなあ。

しつもん

・どうして、そんなにひかたをまもれる力があるんですか。
・また県や市や国がうめたてようとしたらどうしますか。
(もし、ほんたいうんどうをしたら、ぼくも、やります。)

思ったこと

・みんな、はじめの方は、森田さんの手つたいをしなかつたけど今はしている。きっと森田さんのこんじょうには、まけたと思う。
・これから、ひかたをまもってください。

佐々木より

へんじください

サインなどかいてください

おんかいします。

うれしい手紙

ふかんど

第321号

1985.3.10

谷津干潟愛護研究会
〒275 習志野市谷津三十七 鷗荘E号
電話〇四七四一五〇四四
文責 森田三郎

会費年2000

創立
1974.12.9

事務局 0474・51・7076 中村容子

ありがとうございます、佐々木岳くん。(市内谷津一三ー一五津田沼フラワーホーム309)。
とつてどうれしく思いました。おじさんは、やっぱり、時々君のような手紙をくれる人がいないと、カヤ情熱がしおれてしまふよ。ほんとに。
早速、反事と答えを書いて、君のうち

に届けることに決めたよ。おじさんはね、別に深く考えたり、又決めたわけじゃないけど、ごく普通の、ごく当り前のことしかやめて来たかった、そうとしか思えないうんだなあ。おじさんにはね、力はないうよ。ただ、その力みたりなものが、おじさんを「パイプ」として通るんだよ。おじさんは「器」なのさ。

たくさんのお
白いハンカチ
ユリカモメ
くるくる舞っては
パンを喰む

雨あがり
土の匂いに
血がさわぐ
土方は事が
楽しみだ

かぐろうの
ゆらめき見たよ
草はらに
干潟の作業も
本番だ

春よ来い
干潟の水が
ぬるむ水
手ぐすね引いて
待ってるぜ

初めての
ヒバリの声に
空を見り
力が湧くぜ
ボランティア

幼な子の
しみじみのような
手からパン
よいらいよと
投げている



左より、落谷龍生チーフカメラマン、森田、
中村、風転チさん、撮影者杉村靖弘ディレクター。

2月13日

日放送

東京湾の開発と自然をめぐり、
残された自然の一つとして、谷津干
潟が紹介されました。3月5、7、8

わざわざ谷津干潟に訪ねて来てくれ
ました。市川市の行徳海岸、塩浜
で釣り糸を拾っている荒井俊光氏。
「釣り糸から野鳥を守る会」を
一人で作りました。干潟を案内し、
とくに谷津干潟クリーン作戦の話し
てきました。お互いによろしく。

三月の二十五日から三十日の間の日に行り
ますと答えました。というのは、森田のタ
クシーのダイヤが三月の上旬にならな
いとはっきりしないからです。
先日、係の人から電話で「何でとい
いですから、思ったこと、やって来たことなど
自由にお話しして下さりませんか」
との事。で、森田は即OK。半分自信が
あれば、何とかやっていこうというのが信念。
昔の海の、知識と経験とずいぶん多
うに、さあて、何を話してよいとのやら...

習志野市立「白鷺園」老人
から講演の依頼がありました



吹きさらしの冬の干潟、寒かったですね---

ふかんど

1985. 3. 22

第322号

事務局 0474・517076 中村容子

谷津干潟愛護研究会

〒276 習志野市谷津三十七 鶴荘E号
電話 0474-511504 04

文責 森田三郎

会費 年2000

創立 1974. 12. 6

みんな、かぜをひきました

みなさん、やっと冬が終わりましたね。干潟の冬ってゆうのは、とってき寒いですがね。毎年、くいつともう思うのです。

でど、私産は、今年とみんなでがんばりました。かじかんだ手、鼻水だらしなから、凍てついた干潟の中を、ゴミを拾いなから歩きまわした。長靴って、以外と足が冷たいですね。

昨年の秋から冬の終りまではとてと雨が少なかったのに、ここにきて、いやにまた雨の日が多い。さぞかし、自然緑地の草原の縁と、ひときは映えるでしょう。冬の活動、本当にありがとう。

子供はみんな、こころしたいのかな

ご存知、カンパの為のビール缶。皆さんよく入れて下さいます。「ソコに入ってるのかな？」と。

冬で午後になって陽が当たり、いちばん温い時。親子鹿がたくさん来るのです。

谷津干潟に幸福を呼ぶ、「黄色いハンカチの旗」です。どんなに寒くても、私産は立てました。

この二人の子供、常連のうちのなのです。谷津干潟って、子供に人気があるのです。



谷津干潟友の会より（日曜日、休日にボランティア活動をしている）

会員のみなさん、もしよ
 かったら、メダカの池に金
 魚ヤフナを放して下さい。
 あついは、水草とかの植
 物を植えて下さい。
 向きなく、メダカヤザリ
 がニを放す計画でいます。

やとだよ
 半年ぶりに
 水たまる

彫刻の
 ノミのようだよ
 池づくり

水辺沿い
 歩いてついはむ
 ヒバリさん

とられまも
 放してみようか
 メダカの子

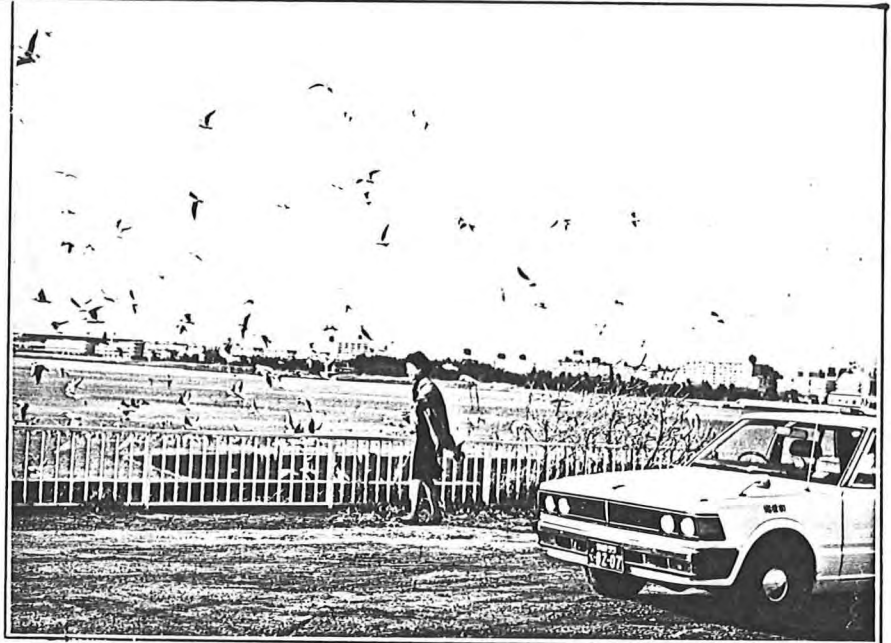
卒論に、森田という人
 向とよの生り立ちとテー
 マにした「ある人物像」
 が合格し、又、無事卒業
 が決った粥川直哉君。
 (明星大学・人文学部)

社会学科)
 彼、追試と論文で
 卒業には苦労したと
 のこと。近いうち、又
 干潟を見に来たいと
 言っています。



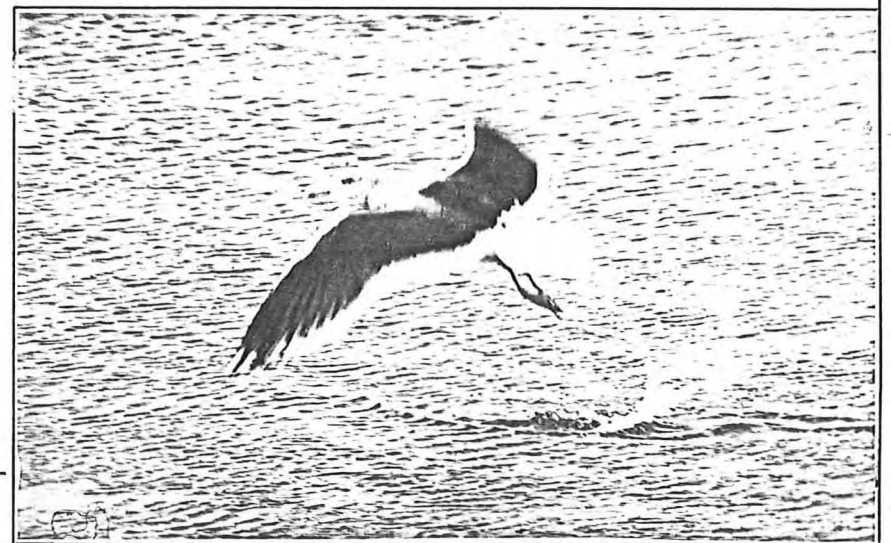
天気の良い日が良い日です
 本当にそうなんです。何のことかかって？。フ
 まり、雨や風の日の方が、カモメヤカモに限ら
 ず、鳥たちを近くで、しかとたくさん見られる

ということなんです。たとえば、強い風
 の日や台風の時やその直後。オオミズナ
 ギドリやグリーンカンドリ、ウミウなどが見
 られました。海が荒れていたので、静か
 な干潟に避難してくるものでしょう。



この日、強い南風の吹く日でした。カモメ
 産は、すぐ頭の上や、手の届くばかりの所に
 来ては、ぐるぐる回りつつ群舞するのです。

たった一羽、ゆう然と オオセグロカ
 モメを私産は見つけました。ユリカモメよ
 りと一回りも二回りも大きくて、ひと目でわ
 かりました。又、冬には珍しいウミネコも一羽。



ふかんど

1985. 4. 5

オ323号

谷津干潟愛護研究会
 干潟 習志野市谷津三十七 鶴荘E号
 電話〇四七四一五〇四四
 文責 森田三郎

会費年2000

創立
1974.12.6

事務局0474-51-7076 中村容子



ここはまだ、植えてから3年、あるいは4年です。でも待つてましたとばかりに作りました。

温かく見守りましょう

卵が二つありました。キジバトです。団地の木にと去年、ヒヨドリが初めて巣を作り、ヒナを育ててました。

ここは、秘密の所にしよう。すぐそばでは、子供がいつと遊んでります。初めての、大事なくその、そっとくしておきましょう。

早いのですね。おそろく、キッと、どう作るだろうと思っていました。そして、ついにやりました。この辺では初めてです。

とっとよく捜せば、他にも、ヒヨドリをはじめとして見つかると思っています。でも、子供産が近くにいますので、調査を観察を十分出来ません。木がとっと大きくなり、たくさん植えたら、とっと巣を作るでしょう。

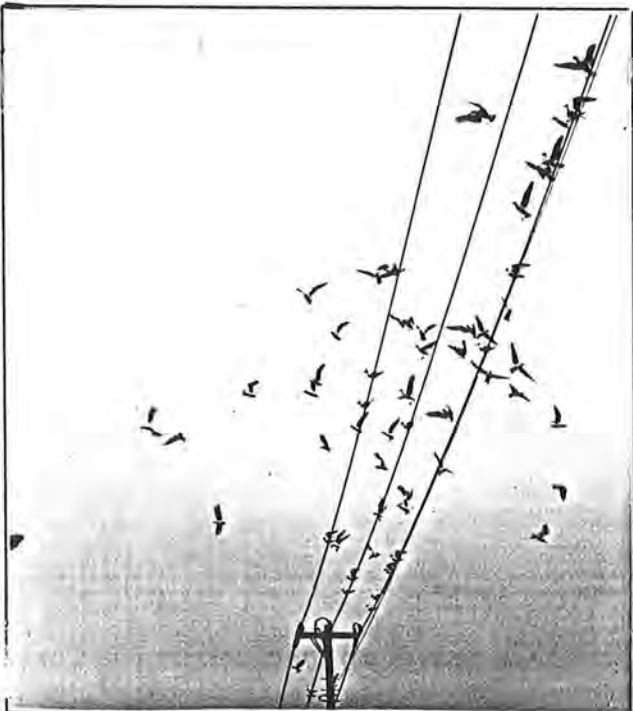
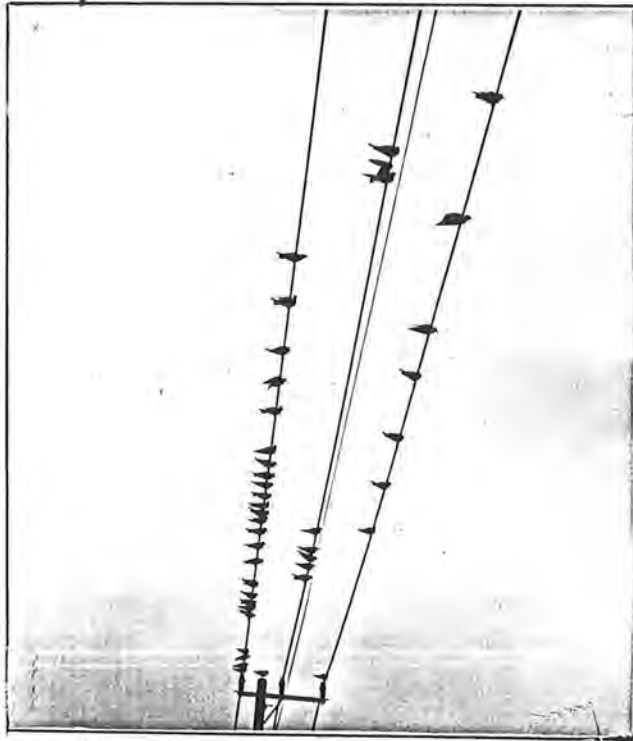
電線にとまっています
待っています

どうやら、カモメとカモ産は、私産と例の森田の、チンドン屋みたいな車を壊してしまっただようです。

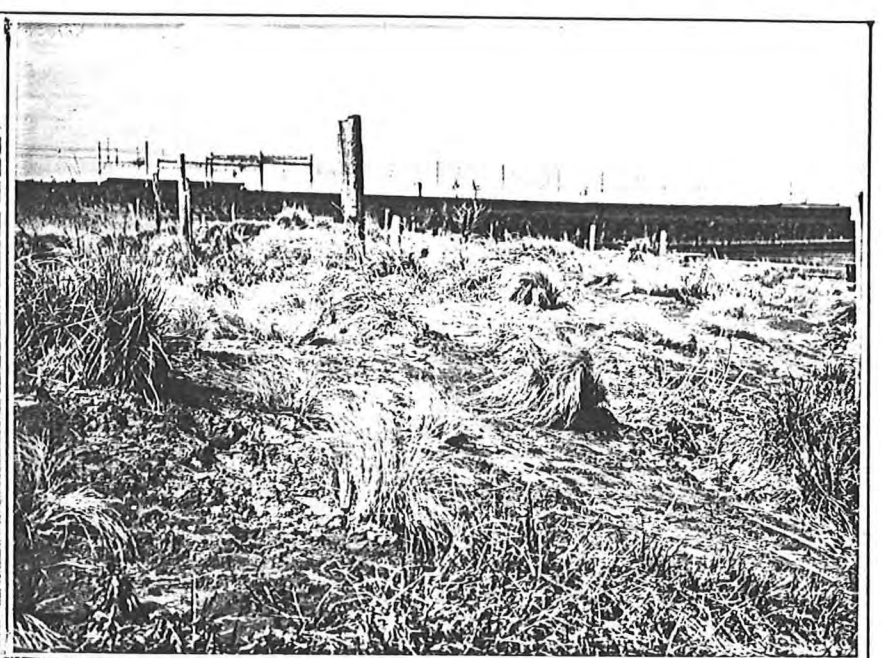
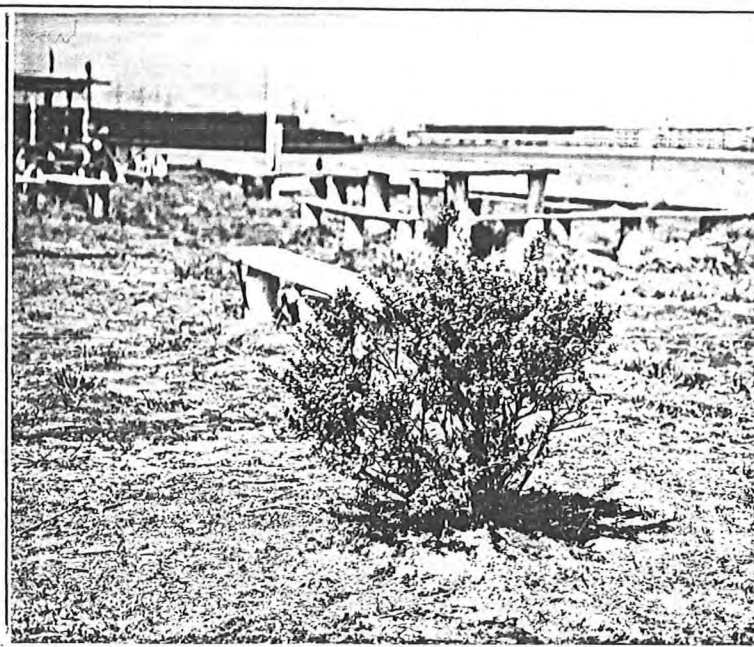
左の字真、津田沼高校わきの電線に、ユ

リカモメがとまっています。毎日ではありませんが、パン投げの時間になると、又、森田の車が干潟に行き、止まっていると車の上に集まって来てしまうのです。カモはカモで、ゾロゾロ歩いてこっちに来るのです。干潟の外、こういう電線みたいな所にとまるなんて、未だかつてなかった光景です。

↑ 午後2時頃。ちゃんと並んで。↓そして、パンを投げると同時にいっせいに。私産が帰ると、1羽もとまっています。



「谷津干潟自然緑地」に春を迎えて三題



水仙が咲きます

メダカの池のそばにあります。今年と又、つぼみをつけ、うす黄色のかわいらしいこと。二年前、香藤鈴夫さんが、実験的に植えたのです。肥料を何とやらなっています。埋め立て地の砂よのまです。

この会報が届く頃、この水仙はみんないっせいに花を咲かせているでしょう。

捨ててあった木よ、育て

一ヶ月前、残土捨て場に半ば枯れかかっていたのを拾ってきて、自然緑地に植えました。

何という名の木かわかりません。二本。その後の様子を見てみると、どうやら無事に生き返りそうですね。

草地の入口に、両側に二本植えてあります。こゝからと、もし皆さんのお手許に草花や木などおありでしたら、植えて下さい。

草の丘にしたいのです

メダカの池の土手です。池を掘った土が、むき出しのままではとても淋しかったからです。又、雨や風で、砂が飛んだりして池が埋まらなくする為でもあります。

一日に五、六株ずつ植えています。四月の半ばを過ぎると、すばらしい勢いで緑が目につくようになります。五月のゴールデンウィークには、素晴らしい若草の丘となるでしょう。セツカがよく巣を作ります。

メダカの池に、オタマジャクシがゆんさかゆんさか発生



オタマジャクシを観察する中村さん。指先で水の中の草をかき分けると、ちよちよ別の所へ行こうとしている。4月12日のこと。

浅い水の中、枯水草の下で群をつくり、黒いかたまりになって集まっている。でも、みんな、子供たちにとられてしまうのかな---



温かい日には水面近くでひよこひよこ泳いでいる。このうち、何匹がカエルになるやら。

昨年、「谷津干潟自然緑地」の水溜りでカエルが鳴っていた。だから、私産は今年はおもしろいかな、メダカの池で卵を産み、オタマジャクシが見られるかも知れないと思っていた。よし、案の定とうだった。

遠い少年の日。初夏のさわやかな朝。かつての「ふかんど」の近くの沼のほとり。水草の茎にしがみついていたトンボのヤゴが、ゆっくりとカラの中からトンボになってゆくのを見ていた。子供の目に焼きついたそれは、今鮮かである。

将来は、ホタルなど...
それは、私産のユメなので。ヤレば、出来ると思っております。ホタルだけでなく、草ではシヨウブ、アヤメ、ユーレイ、そんな浮き草。魚ではドジョウ、フナ、クチボソ、メダカ、キンギョ産も。鳥ではカワセミ。

現在は、なにないづくしの谷津干潟ですが、一歩一歩努力し、研究し、やり続けていきたいと思います。

ふかんど

※324号

1985.4.15

谷津干潟愛護研究会
〒275 習志野市谷津三十七 鷗荘E号
電話〇四七四一五〇四四
文責 森田三郎

会費 年2000

創立
1974.12.6

事務局 0474-51-7076 中村容子

メダカの池は4年がかりの手作り。水は雨水だけ。

水とドロにまみれて

「グリーンクリーン」

「飼うんだったら、きちんとして責任を持って飼え」。そう言いたくもったこと。

4月17日(水)。夕方近く、潟スキーで3航海目を終え、潟スキーから大型ゴミを降ろしていった。そしたり、一人の婦人が堤防の上から私に声をかけた。「あの、お仕事すみませんが、今、遊歩道のところを歩いていたが、犬

の鳴き声かするんであたりを見まわしたんです。でも姿が見えないんで、おかしらと思いなから、よく捜したんです。そして干潟の中から声かして、見たら、ビニールと紙の袋に入れてあり、ロープもついてるんです。助けてあげて下さい」と行ってみると、半反半生で、のたうっていた。子供と大人が10人位見ると、犬を拾いあげた。

いるかしら、今日と

「そうなんです。今、かもめおばさんはそんな毎日なんです。」

「そう、明日にでも、干潟からみんな姿を消し、渡って行ってとおかしくな

い時期なのです。今日はどうか、今日とユリカモメたちはいつかしら」と、そんな心境で干潟に行っているのです。毎年、帰る時期が近づく、パンの喰いつきが悪くなり、カモメの群は鳴き、よく飛びまわすのでした。干潟に全く姿を見せない

有権者の目

五十五年三月、谷津干潟周辺に住む主婦十人で谷津干潟環境美化委員会結成、毎月三回、干潟の周囲の清掃をしている。自分たちの身近に、



谷津干潟周辺に緑の公園を

主婦 中村 容子さん 39 (沼志野市)

た。その結果今年度から干潟の一角を工場跡と住宅地を隔てグリーンベルトとして残す公害防止事業もスタートした。さらに、干潟周辺整備も行われるようですが、その際は、できる限り緑地面積を広く確保して欲しい。また、干潟に流入する都市下水対策を万全にして、水質の保持、子供たちが、野鳥観察やカニ採りなどを楽しめる公園整備を望みたい。(おわり)



坊や、お願い、鳥さんを撃たなりでね。坊やのガンさばき。きこい気に入ってたね。

秋津3丁目子供会・ひまわり。お母と子供が100人ぐらゐ、カモメにパン投げ。その声と姿に圧倒され、遠くで食べた。

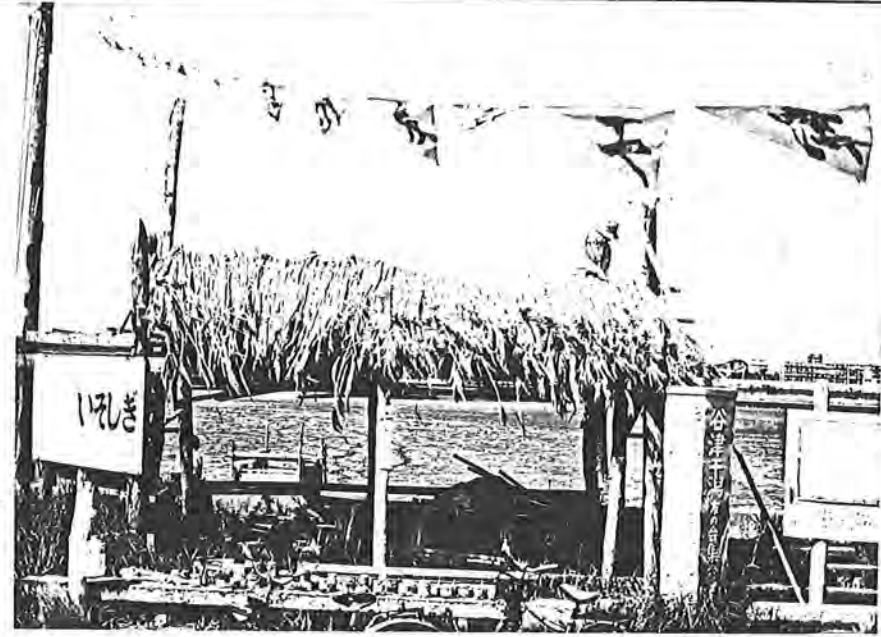


Vol 325 遺失

暑さに向けてあずま屋「いそしぎ」の屋根作り



宮川郁子さん。まだ小さな子供がいるのに、急い中をクリーン作戦。やって「いそしぎ」の屋根作りの手伝い。おチマが荒れますよ。



屋根作りをしている長塚進吉氏。枯れたアシを刈り、束ね、屋根に登って束ねたアシを一つ一つヒモで結えているところ。



屋根作りのきっかけとなった「日本ナチュラリスト協会・京葉支部」の皆さん。そして皆さんの屋根作りをするといつ計画がなかつたら、私産もふんざりがつかなかつたでしょう。



写真右から五十嵐吉夫氏、森田、長塚進吉氏。「いそしぎ」の屋根作りは、長塚氏が中心になって作りられました。五十嵐氏は、テーブル・ベンチ・台などを作ってくれました。

ふかんど

オ326号

1985.5.5

谷津干潟愛護研究会
〒275 習志野市谷津幸七 鶴荘B号
電話〇四七四一五〇四四
文責 木村田三郎

会費 年2000

創立 1974.12.9

事務局 0474・51・7076 中村容子

谷津干潟のシンボル
あずま屋「いそしぎ」
陽差しの強くなるこれから10月にかけて、あずま屋「いそしぎ」はその存在と有用性を十二分に発揮します。今までは日陰を作っただけでしたが、今年は屋根をへ形に変え、雨どしのげるようにしました。
アシ刈りには、長塚氏の中学時代の友人、今村氏と来てくれました。

この会報は、津田沼駅前で客待ちをしているタクシーの中で作りました。

お知らせ・行事などいろいろ

環境月間の為のTV放送

提供・環境庁・製作・日経

映像 演出・真部猪一氏

6月3日(月)～6月7日(金)

11:30～12:30 「お昼だドンノ」

5分間の映画で、谷津干潟と私産の活動が紹介されます。

奥様向けの楽しいものらしい。

電電(NTT)津田沼サ

ービスセンターより

谷津干潟・野鳥写真真展

の依頼

5月8日(水)～5月18日(土)

バードウィークに因んで行なわれるとのこと。野鳥の声をテープで流すということですよ。

大久保公民館と

谷津公民館 合同の

「寿学級」(老人)

講師の依頼がありました。

5月8日(水)。谷津公民館に

て谷津干潟の説明と講義。その

後干潟の見学。午後1:30～3:30

風船に託された

ひまわりの種、ワフブ

谷津7丁目子供会「あざみの会」

3月下旬の雨の中。車で干潟のそばを

走っていると風船が落ちていた。拾ってみた

らひまわりの種、そして名前と電話番号

号、「あざみ子供会」とあった。干潟の

草むらに植えて、大きくなったら見に行き

たいとのこと。

「房総風土記・習志野市編」

に谷津干潟が紹介されます

発行は海潮社。5月26日発行予定。

これは、千葉相互銀行から出ています

ので、県内の同行支店に置かれています

とのこと。(無料)

担当者から、干潟のいきさつ、説明、私

産の活動を求められました。又写真と

提供しました。

習志野市立「白鷺園」より

谷津干潟の現地見学への

同行と説明の依頼

5月28日(火)。午後1:30～3:30頃まで

マイクロバスで谷津干潟に行きます。

去る3月25日、同園で森田が干潟の運動

の話しをしました。その後、皆さんが是非

行ってみたいとのことと相成ったとのこと。

このところ、人前に出る機会が多くなりました。服装や言葉使いを勉強しよう。

旧谷津遊園地がわからクリーン作戦を展開する

ふかんど

オ327号

事務局 0474・517076 中村容子

1985.5.10

谷津干潟愛護研究会
 〒276 習志野市谷津三七 鶴荘E号
 電話 0474-51-5150 四四
 文責 森田三郎

会費年 2000

創立
1974.12.9

より広く、強かに

「フリーパス、そういうことにしまし
 しょう。よくわかりました、今後とどかん
 ばって下さい」。これは、旧遊園地をパト
 ロールしているガードマンの言葉である。

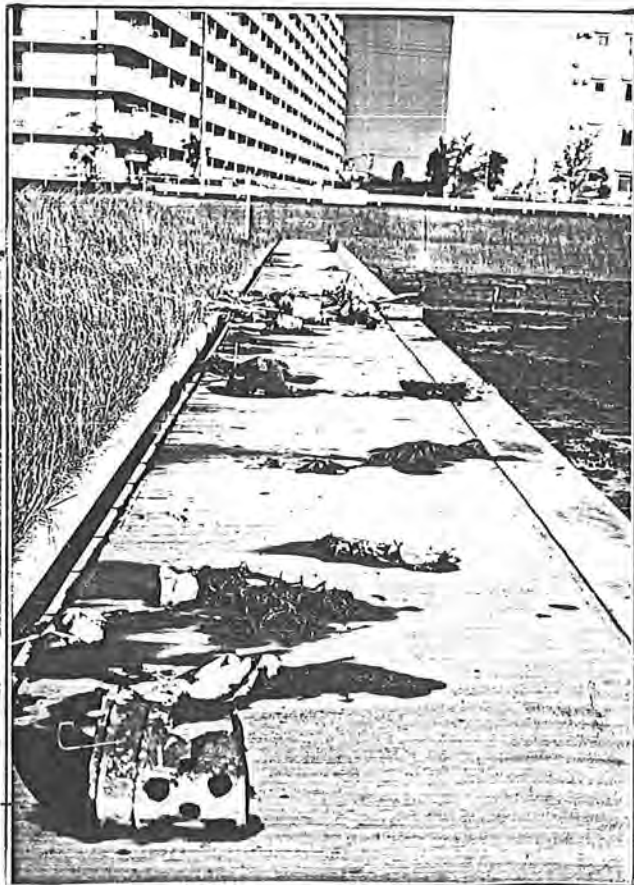
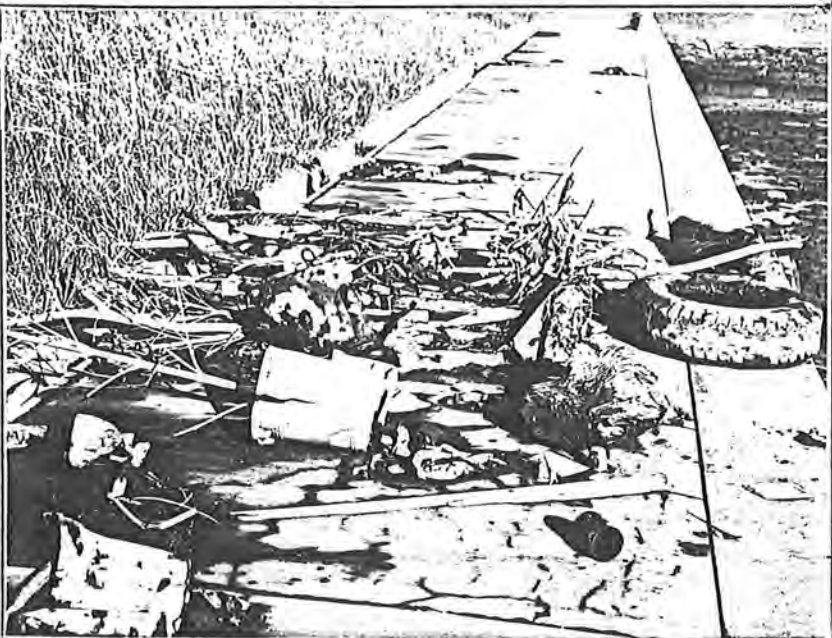
事前に、住宅都市整備公団に私
 産はクリーン作戦の為に立ち入りを自
 由にして欲しい、よう申し入れをしたの
 である。そして、現地のガードマンに連絡
 しておいて下さいと頼んでおいた。

旧遊園地は、すっかり建物はとり壊され、
 人っ子一人いない所を、草がぼうぼうと
 生い茂れる中を私産は通って行くのだ。
 清掃にとりかかる前に、干潟に隣接す
 る約1kmの岸と、すぐ前の干潟を見て歩
 き、観察と調査をした。昭和55年頃、



遊園前面のある所は、かなりの広さの
 所を、とぐらずに歩くことができる。こ
 こは、手にいっぱいゴミを持って歩く。

続々と引き上げられてゆくゴミ。
 7ヶ所位の場所にゴミを積んでい
 る。週2日位のペースで産んでいる。



まだ遊園が壊れていなかった時よりも、干潟
 ははるかにきれいになっていった。ゴカイヤカ
 ニも多くなっていたし、砂ヤドロも生きて
 いた。砂質の所と砂質のカニが増え、ト
 ヒハセが釣りのには驚いた。
 遊園がわにゴミを引き上げてほしいこと
 になった。清掃の方法は二つあって、一つは遊
 園に入ることにしよう。二つは、南岸から潟
 スキーで横断することによってである。こ
 れで、クリーン作戦は更に前進する。

◎ 工事開始後とクリーン作戦をします。

或る日の谷津干潟



谷津干潟で作業をし
ていると、いろいろな人産と
いろいろな形でめぐり合
います。「ふかんど」にはこ
れから、多くの人を載せたい。

“いやあー、まいったねえー、ア
ンタ方にはあ”。旧遊園地のガ
ードマンとびっくり。この人、オシャレ!

おいしそあー。自然緑地で
イチゴを食べる中村容子さん。

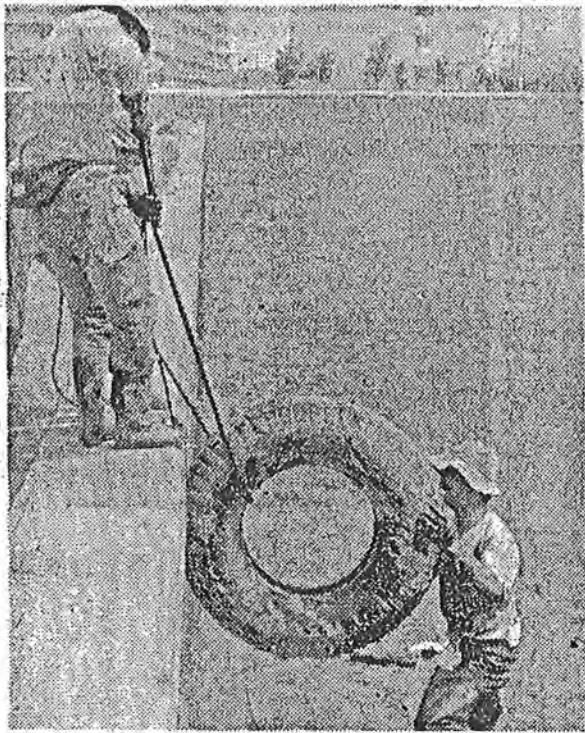
“はずかしいー、やめてえ”と
宮川郁子さん。ヒマを見つけては
干潟に。



渡り鳥の楽園守る

谷津干潟
愛護研究会
今年も清掃、労苦の10年

十日からの愛鳥週間を前に五日、習志野市谷津の全国でも有数の渡り鳥の楽園、谷津干潟で、谷津干潟愛護研究会（森田三郎代表、会員二十五人）などが中心となってクリーン作戦が行われた。谷津干潟はこれから一年中で渡り鳥が一番姿を見せるシーズン。渡り鳥が飛び交う現在のような干潟となったのは、同研究会を中心とした約十年にわたるクリーン作戦も大きくあがっている。



タイヤなど干潟の中にあるゴミを引き上げる愛護研究会メンバー＝習志野市谷津の谷津干潟で

このクリーン作戦は五十年、運転手をしている同研究会代表の森田さん＝習志野市谷津一が建築廃材などのゴミ捨て場だった谷津干潟を昔の姿に戻そうと干潟の土砂の中からゴミを拾い集めたのがきっかけだった。初めはゴミを捨てる、またその場所にゴミが捨てられるという繰り返し。それでもゴミ拾いを黙々と続けている森田さんの姿を見て徐々に干潟周辺に住む会社員や主婦らの協力者が現れ、五十五年から週一回、定期的に谷津干潟を清掃するボランティア活動のクリーン作戦へと発展した。

現在、三十三畧の広さの谷津干潟から建築廃材などの大型のゴミは姿を消し、また森田さんらの清掃作業をみて、今はもう干潟にゴミを捨てる人もいなくなった。この日は午後一時から、森田さんが長靴姿で干潟の中に入り、カニやハゼ、ゴカイなどの呼吸を困難にするヒニールなどを泥だらけになりながら拾った。

近くでバードウォッチングをしていた野鳥の会のメンバーによると、谷津干潟はエサが豊富なために先月二十九日に観察した際、シギ、チドリなど四十四種、約六千羽の鳥が集まっており、全国有数の渡り鳥の楽園という。

クリーン作戦を終えた森田さんは「谷津干潟は渡り鳥にとっては、車では見えませんが、鳥の生息物を守っていきたい」と話していた。



この日（5月5日）、

五十嵐吉夫、長塚進吉、森田の3人が旧遊園地に入り、そしてクリーン作戦をした。一人では引き上げられない重いゴミを清掃。その後3人は、夏草の茂る旧遊園地を見てまわった。

ささやかなれども、主婦と子供の谷津干潟

ふかんど

第328号

1985.5.14

谷津干潟愛護研究会
 〒276 習志野市谷津三十七 船荘E号
 電話〇四七四一五〇四四
 文責 森田 三郎

会費年2000
 創立
 1974.12.9

事務局 0474・517076 中村容子

いつも、ありがとう

左の写真の人、干潟のすぐ近くにお住まりの主婦、野村さんです。秋津田地です。ララポートに買い物に行く時、又、散歩にと、よく干潟に来るのです。土いじりなどが大好きなんです。

ついこの間、潟スキーで清掃していたら、誰かが岸から大きな声で「森田さあーん、森田さあーん／＼」と叫んでいたのでした。誰かなあ、と思って行ったら野村さんでした。弁当とお茶、お菓子や手ふきを持って来てくれたのです。「いとしぎ」で少時く話をしました。

野村さん、2年前からコスモス、ヒマワリ、ダリアなどを植えている。

今年は、ハランとアオキ。穴だらけで水がじゃあく。メダカの池から汲んでくる。

体格がいりから、スコップや水汲みがサマになっている。さて、つくかなー。

子供達、頼むぜえ

習志野市立向山小学校(とと)4年一同「野鳥を守ろう」という看板。4月1日、放課後皆んなして立てに来たのでした。



アヒルが卵を産んだ

いやホント。あのね、ほら、谷津干
 潟に今、アヒルが3羽いたでしょ。
 奥は、干潟の中のアシ原に、ちゃんと
 巣を作り、卵を産んだんですよ。
 卵の数は10個位だったかなあ。

でまあ、そこまででは良かったんですが、
 5月6日前後の大潮の時、潮が高かつ
 たんですから、皆んな流されてしまっ
 たのでした。あー、残念でした。
 その事以来、あのアヒル産の姿を見るの
 が可哀しそうになってしまいました。でど、
 干潟と、そういう所になって来たんですね。

これぞ、現状の一つです

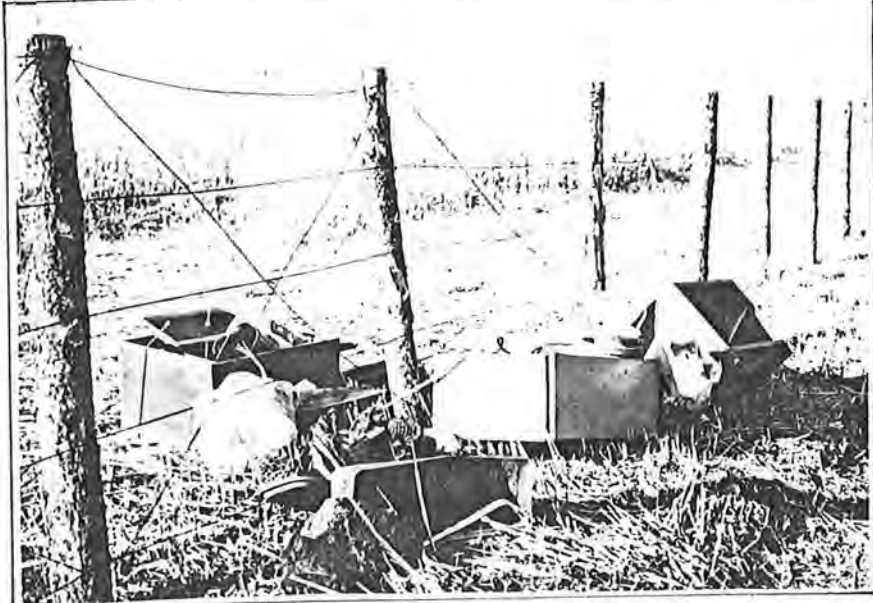
「なあに、あすこ(干潟)にゴミを
 持ってきて置いときゃあ、又あ、いつと
 のように持っていくてくんだらあ」。
 「ー、そんなつぶやきが、きつとそ
 うじゃなりましたうかと思いが、聞え、
 かつこみ上げて来てしまふんです。
 せつかく、6年前、県企業と話

し合りで決めた場所が、干潟のゴミでな
 く、心なり人産によってこうなふうに利
 用されてきているのです。
 そらあ、まあねえ、広く解釈すれば、
 こういうやり方を「干潟の利用の一つ」な
 んでしょうが。私産とさせることながら、企
 業庁とかわりそうだよー、うー。
 皆さん、谷津干潟をとり巻く環境の一
 つに、こういうのもあること、頭の隅にね。

きつと、引越の時に生
 し、捨てていったのでしょ。
 これ全部家庭用品。

干潟の中へは出しませんが、
 まわりの草むらにはゴミを
 持て来て「ポイッ」。

テレビ、ステレオ、植木
 鉢、バケツ、本棚など。
 草地を残して守る、大変です。



あれっ、又だよ、しょうがないなあ...

今年と繁殖調査を始めます

ふかんど

第329号

1985.5.17

谷津干潟愛護研究会

〒25 習志野市谷津十七 郵便E号
電話〇四七四一五〇四四

文責 森田三郎

会費年2000

創立
1974.12.9

事務局0474-517076 中村容子

コアジサシ・シロチドリ ・コチドリの巣と卵

今年で11年目である。最初が昭和50年に行なわれた。

期間は、5月中旬より7月末まで。

この調査は、貝ガラと砂からなる砂漠のような埋め立て地に、足でおわん形のくぼ地を作り、程度の多少はあつて貝ガラを敷いて卵を産む。卵の数は、コアジサシとシロチドリが3個。コチドリが4個である。植物、つまり

草は全くないか、あるいはあつてもまばらな所である。ふつふの鳥とは違い、草やワラ、枝などは使わず、全くのむき出しである。その為、本能の知恵か、卵からヒナになった時、歩き出すのが早く、特にコチドリ、シロチドリはヒナになつてから数時間すると自分で歩き出し、親からエサをとらうこととなる。体のわりには足だけが長くて丈夫であるから、すばらしイスピードで平らな埋め立て地を走る。人や野犬が来ると、親がピーッと鳴き、ヒナ産はピタツと地面にはりついてしまう。

水路に油のタレ流し

おかげで干潟はギンギンフギン

ホントモオ、毎度くの事で、ドオシヨウモナイッスネ！

場所は秋津の津田沼高校のわき。習志野市サン、いんですかつ、いつも

いつもこんなことをやっていてー。5回や10回じゃないですよ。あまけに時にはウシコまで出してさあ。ええ？、干潟や水路を管理している国や県に言ってくれてい。まさかあ。だって、出してる所と人は、アンタのところですよ。

あのね、私産ゴミ拾ってんとね、いろんな所で、いろんな事を、いろんなものが分ちやうんです。そう、干潟が、私産5歳の全てを通して、「絵言葉」で教えてくれるの。訴え、語りかけ、見せてくれるの。



ゴミならば拾えるが、流れて広がる油ではねえ。私産は本腰を入れて対処します。

野鳥の楽園？、———そんな殺生なあ。だったら、そう在らしめようよ。



ほのぼの…人と野性の交流

場所は習志野市谷津干潟の草地。夜毎、ごちそうのハツカネズミをねだるミミズくんがいる。写真のようにエサのネズミを手の平、頭や肩の上、どこにおいてもサッと飛びつく。「あの鋭い爪も筆先でフツとなでられた程度。

ミミズくんもエサをくれる人間を傷つけぬよう気を使ってるというわけです。語るは干潟の番人として有名な森田三郎氏(39)である。この、人と野性のほのぼのとした交流に拍手。



ていするあんなバカ
騒ぎな事はしな
いでくわ。干潟の
草原が最高と。

住宅地の内海に
生きた化石!

天然記念物で生きた化石といわれるカブトガニ。北九州と四国の一部で生息していることは知られていた。が、過日、なんと習志野市の谷津の干潟(というより住宅地の中にある池みたいな処)で見つかったというから驚くではないか。カブトガニは節足動物である。つまりカニというよりクモの仲間なんだそう。三葉虫に似て古代からほとんど姿を変えていない。ご覧のように甲らにいったいふじつぽをつけている。飼われていたものとも思えない。

結婚促進と
谷津干潟

神さま仏さま、どうか一組で
さっぱいの結婚があつてくれ
ますように。〇〇でーい。
ところで、この関係のある人
は当会の会員です。この記事
の時、「あのね、森ちゃん結婚
はね、オレ産が仕事でやっ

「マイちば」
VOL. 28
1985 春季号



3月5日から7日にわたって放送され
ました。15分番組。干潟に来た子供
は殆んど見たとの事。干潟は教材だ。

長く、かつ激しかつ
た、「冬の時代の谷
津干潟保護運動」。
ホウ貶の彼方を見つめ
つた。

野鳥の生態パチリ
「愛鳥週間」で写真展
NTT津田沼SS

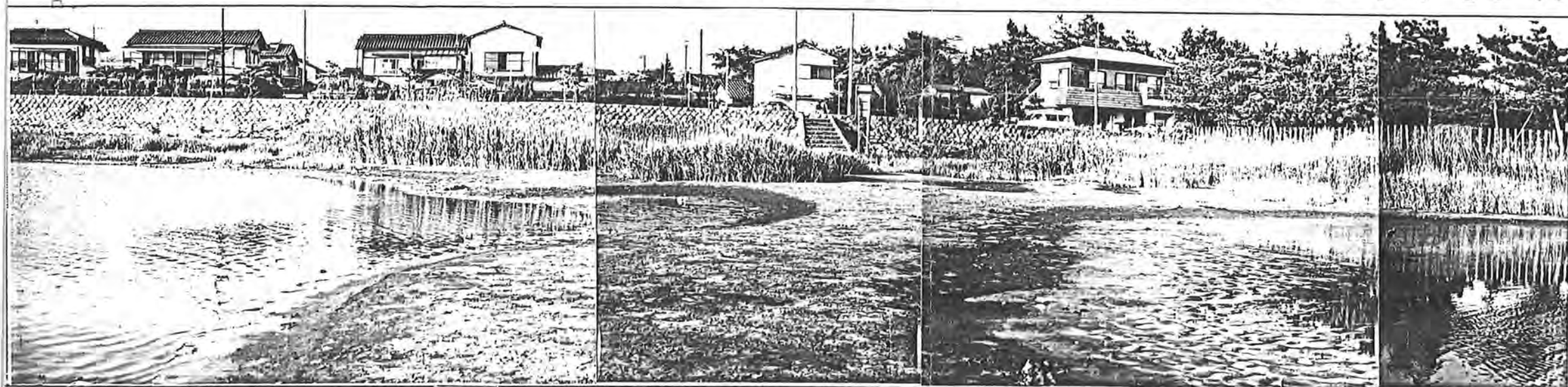
国鉄津田沼駅前の日本電信「ステーション」で十日から「パチリ」が
電話株式会社津田沼サービス「ドワッチング写真展」が

【電電の「ミニ画廊」で開かれているパチリドワッチング写真展】

千葉日報
1985.5.11

開かれている。同日から始まった「愛鳥週間」にちなんでの企画で谷津干潟愛護研究会、日本野鳥の会の協力を受けた。
回ステーションの壁面を使った「ミニ画廊」には谷津干潟の鳥の大群はじめ、同干潟で撮影したコアシサシ、コミミズク、コサギ、ダイサギなどの鳥類のほか、日本野鳥の会のメシロ、カワセミなどの四ツ切から半切までの生態写真約二十五枚が展示されている。同写真展は二十一日まで無料。

今がいちばんきれいな、谷津干潟クリーン作戦モデル地区



ふがんど

ネ330号

1985.5.21

谷津干潟愛護研究会

〒250 習志野市谷津三七七 鷗荘E号
電話〇四七四一五一一五〇四四
文責 森田三郎

会費年2000

創立
1974.12.9

事務局0474・51・7076 中村容子

手作りの干潟にはチゴカニ・コメシマカニ。ドロとの境にはゴカイ。ドロの所にはヤマトオサガニ。アシ原の水の中に、ハセとカニの赤ん坊の大群。

谷津干潟で、とっとと変化に富んだ所です

植物や干潟の生物いろいろ、そして野鳥などが、わずか100メートル四方の広さで、いろんなところがいちばんよく見え、わかる所なんです。

場所は谷津3丁目前の、旧遊園ギヤの干潟です。地形といるんなふうに入りくんでいて、よく歩いて観察すると面白いですよ。

かつてここは、谷津干潟で最もゴミが多く捨てられていました。辺り一面ゴミで、見えるものよりも埋まっていたりものか何倍もありました。でも今は、谷津干潟の「縮図」みたくなっているのですよ。中央の干潟は手作りですが、そのすぐわきではドロが次々と削られていって、溜（ミオ）がアメンバーのように作られていっているのです。

この地区を担当している谷津干潟環境美化委員会のメンバーです。右から、宮川さん、種田さん、松枝さん、中村さん、井本さん、そしてフリータッキ帰った本宮さん。毎月チ火曜日午前10時半〜12時まで。清掃後はいつもの茶とおしゃべり……今度、よぶーく見て下さい。



人や鳥が入りにくいアシ原の水溜りに、2種類のカメがいたの、ちゃんと知ってるんです。

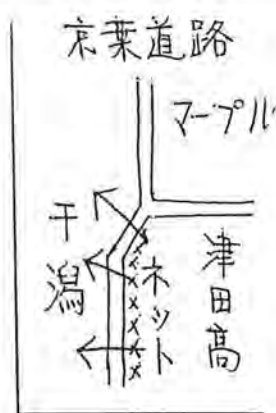
町会と共に「ゴミゼロ運動」に参加

アッ、危ないよ、津田高(野球部)さん

「気を付けてもらったって、無理だよ。」

30分間にも3回と硬球
ボールが飛び出す

お願い、早くネットを
高くして下さいね。



2ヶ月やろ
ケ月のことじ
やないし、早
く何とかして

欲しいと思います。すでに車の窓が
ガラスを割ることとありました。「気
をつけて下さい。事故の責任は負
いません」という看板、おかしいよ。

6月2日(日) 午前8時~10時

県立津田沼高校グラウンド

袖ヶ浦の連合町会長、三代川佐
一氏より、参加の呼びかけがありま
した。

谷津干潟クリーン作戦では、初
めてのことです。干潟の清掃を始
めて11年、クリーン作戦誕生から
奥に5年目の、新時代を迎えました。
校庭にパネルを展示

町会長さんより、たくさんの方が
来る良い機会なので、干潟の写真
パネルを展示して下さいとの要望。

老人会「寿学級」の案内と説明

5月8日(水)。大久保・谷津公民
館合同で行なわれました。

参加者46名、職員3名、案内森田。
公民館 ↓ 谷津3丁目前 ↓ 船取
線際 ↓ 湾岸道の遊歩道 ↓ あず
ま屋「いそ
しぎ」とい
うコースを
歩きました。
干潟いち
面のカニの
大群にびっ
くり。もし
て約600羽の
シギとチ
ドリ。



谷津遊園跡地開発の説明会

町会長より参加の要請

5月26日(日) 午前10時より

マープル津田沼スカイハイッ
集会所

これは、住宅・都市整備公団が袖
ヶ浦地区の住民になされる説明会
です。袖ヶ浦では2回目のもので、
町会長さんより、「私産と干潟の
保存に賛成である。干潟に隣接して
いるので、森田さん産と是非参加し
て欲しい」とのことでした。又、谷津
地区においても町会からの呼びかけ
で参加させて頂いております。

千葉の干潟を守る会、千葉県野鳥の会と共同参加です。

それゆけ、ドロッコ大行進

汚水るのはいいけど、ビニールを割ってはつけないよ。



“君産い、確か秋津小学校では干潟に来るのは禁止のはずだけど、大丈夫かい?”。↓



← 干潟の中で靴をなくしちゃった。お母さんに叱られる。
↑ 干潟の中で腹ばいになって、滑るんだが。氷ぐんだか。



ふかんど

オ331号

1985.5.26

谷津干潟愛護研究会
〒275 習志野市谷津三七七 鶴荘E号
電話〇四七四一五〇四四
文責 木村三郎

会費年2000

創立
1974.12.9

事務局0474・517076 中村容子



「どうせ、さっつ汚水
ちやったよー」
と、言っていたのでした。
この子供産、30人ぐらいい、干潟の西
にある習志野市立秋津小学校5
年生。クラスメイトがさっつ合っ
来たとのこと。
初めはみんな、護岸の上から見て
いただけ。ところが、秋津の子供が一
人、カニをつかまえるのを見た。そし
たら、この中の男の子が数人階段を
降りて来て、「おじさん、シヤベルを
貸して下さい」と言った。何匹かと
れたら、女の子もぞろぞろ降りて来た。
やがて、ドロの中が「気持ち悪いけ
ど面白い」と誰かが。後はさっつご
んの通りでキャア〜言っていた。

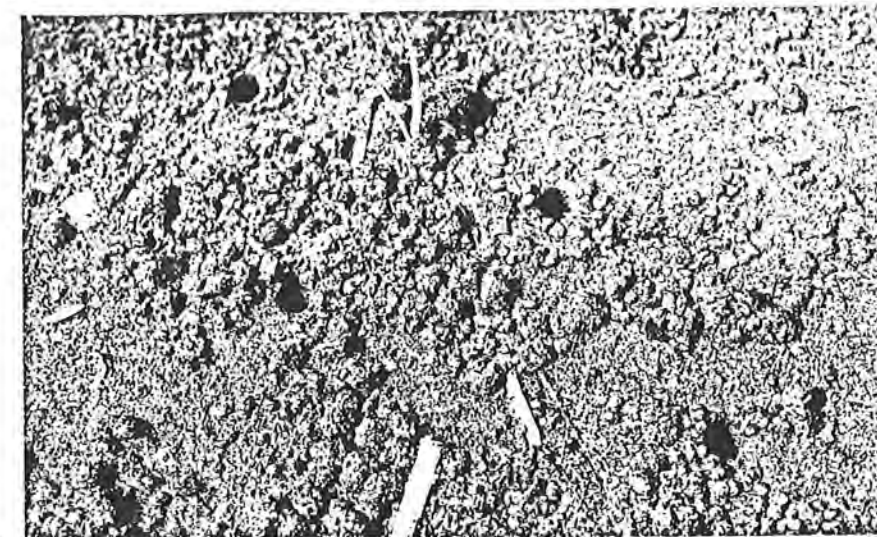
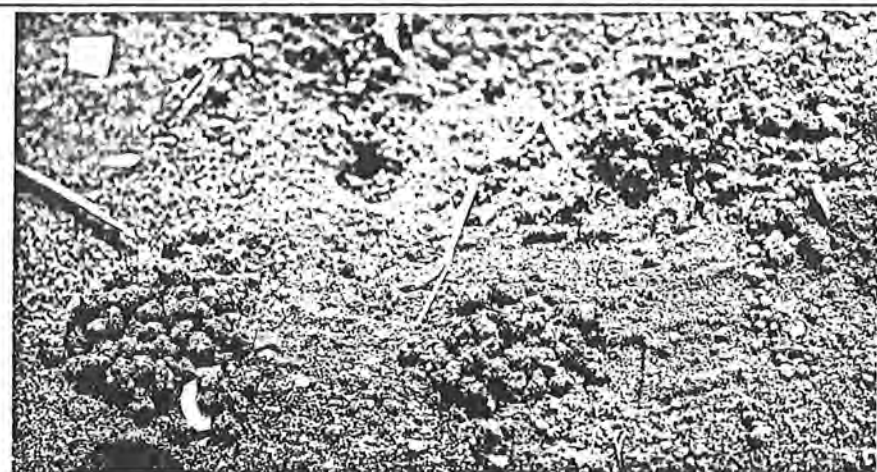


本当は君産に、さっつちゃんとしてやりたいが、おじさん達の力がないから---



京葉ホンダ社長 小林大光氏
 愛護研究会の機動力は、
 実はこの人のお陰です

「森田さん、人類ってヤツは、この地球をね、喰って生きてるんだよ！」
 巾かすかぬ。ええ。何でとかなでとて
 めの都合のいいようにする事しか考



干潟を耕し、きれいにする

「よく人を見なさい。この心のある人かいかは少なりがわかるよ」

この人なくして、ベンチも草地とクリーン作戦となり。

ようとしなさい。勝手な理屈をつけて。
 あのアメリカを見なよ。あれだけ広い、かつ豊富な資源を持ってさえいまだに足りず、今度は宇宙にまで手を伸ばしててめえの為にしようとしている。この社会に被害者なんていないんだ。皆んなオレ達は加害者なんだ。いさよとすれば、未開地の、ホントに原始的な生活をしてる人達だけだ。こんな車とか高速道路とかコンピューター、ロケットなんか喰って生きられぬんだ」。

「でと小林さんは、車を売ってますよね」
 「そうです。車をしゃんく売って、排気ガスを撒きちらし、事故を起こし、あちこちで裁判が行なわれる。人類が一刻と早くこの地球上から滅亡出来るよう、と、おまねいさせせて頂くんです」。

黒い穴は、チゴガニとコメツキガニの巣です。両方共、その小さな青白いハサミを上下に振って、みんないっせいに、イチニツ、イチニツとばかりに体操する。だから、少年の頃、あのがき大将のマーちゃんは、「さぶら、あれはなあ、体操が二つというんだ、ああやう潮を呼んでんだ」と教えてくれた。

砂の中の微生物やゴミを食べ、消化できない純粋の砂だけを出してだんごの山を作ります。

「理屈とバンソウコウは、どこにでもくっつくからね」と。この季節、何十万の大群が体操しています。

干潟を滑る } バードウィークは終わったけれど

ふかんど

ネ332号

1985.6.1

谷津干潟愛護研究会
〒275 習志野市谷津三十七 鷗荘E号
電話〇四七四一五〇四四
文責 森田三郎

会費 年2000

創立
1974.12.9

事務局 0474-517076 中村容子



これみんな、釣り糸。すごい量でしょう。でもね、これはまだまだホンの一部。

釣り糸が束になって

——落ちてるんじゃない、拾うんじゃない、持って上げ、引きずり出すんです。私達はバードウィーク前から、そして現在も、釣り糸に重負を置いてクリーン作戦を展開して来ています。

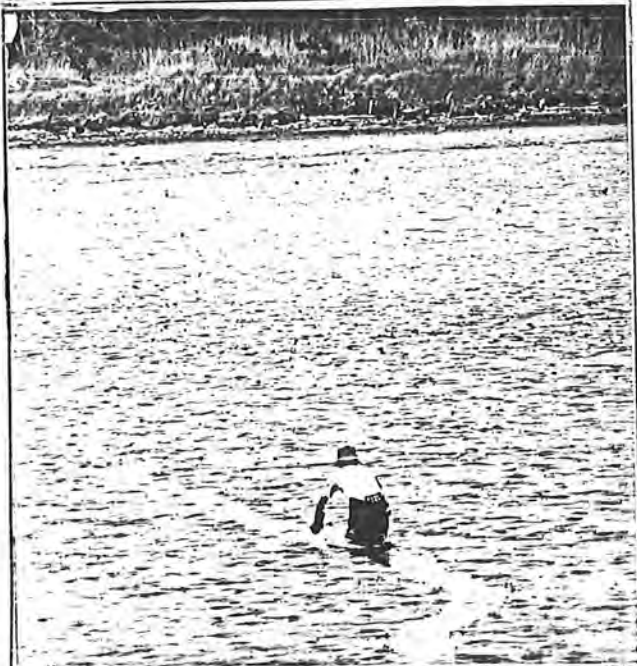
毎年、そして何羽もの野鳥が釣り糸で死んだり、傷つき、又、糸を着けて飛んでいるのを目にします。かなり大変ですが、夏の終りまでには何とか終えたい。

我が身の如く、話をするかの如く、いつ日かそういう心境になった。潟スキーは、カニの穴などを踏まないので助かっている。鳥を見る人から、「クリーン作戦と言ったって森田さん達は、ゴカイヤカニを」

さあ出航。頭
次々とかくれるんです。

「ぶしているじゃないの」と言われて。 「じゃあ、どうすれば？」と森田。すると、「ゴミなんか拾わなければ」と。いつ日か、日を重ね、五感で干潟と触れ合ううちに、目には見えなくとも、埋まれているゴミがわかるようになってきた。ちょっと言葉では表わせないが。

向う岸は旧遊園地。前面には、たくさん捨てられたゴミ。



野鳥観察者の少ない秋頃まで、干潟の作業をせいっぱいガンバリマス。

長塚さん3部作 } 干潟焼き



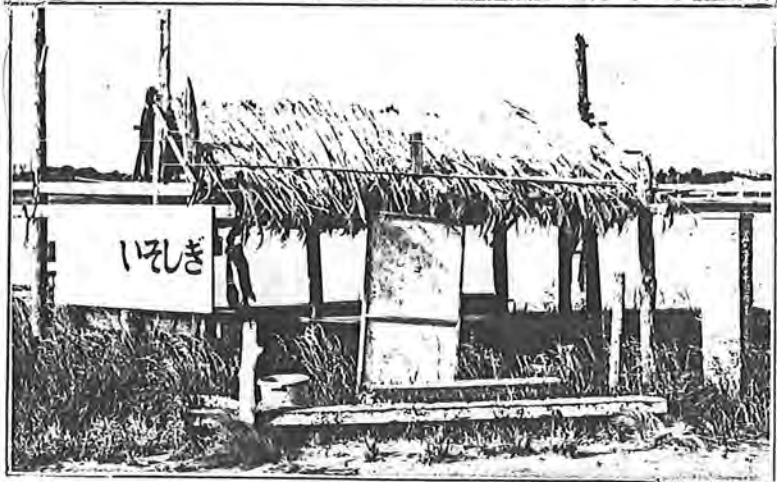
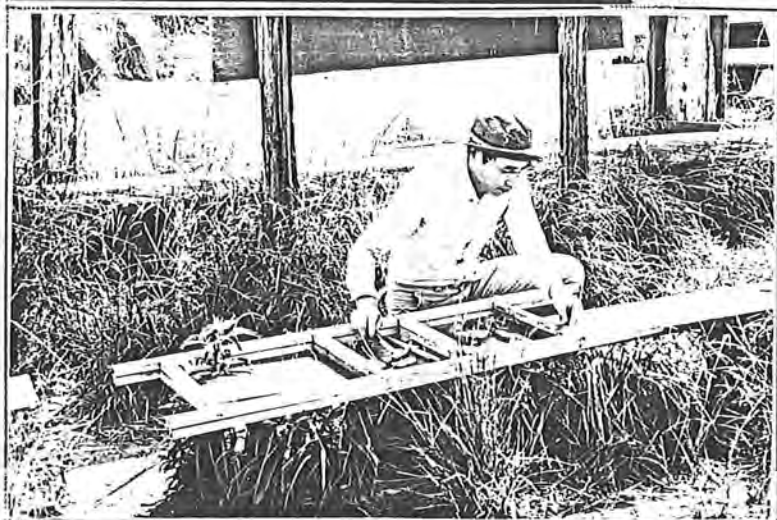
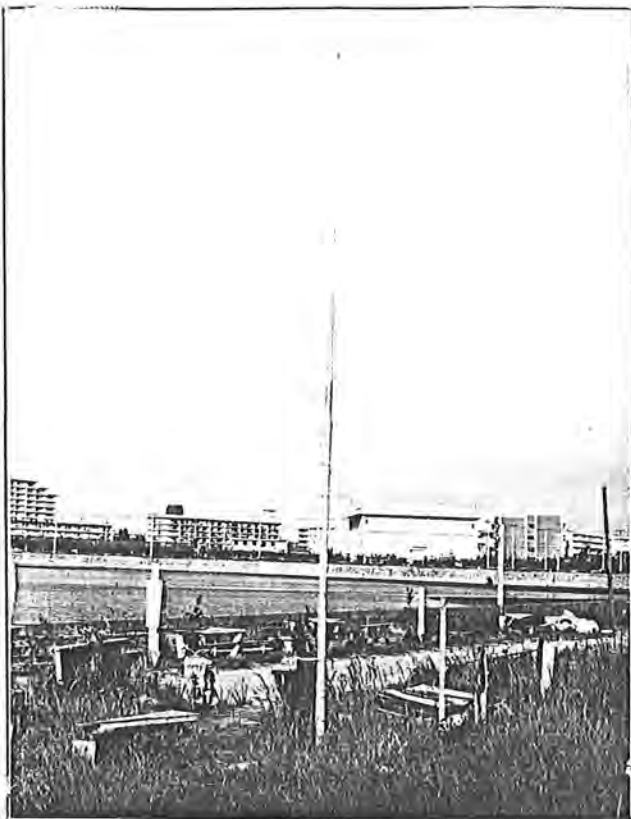
日本ナチュラリストクラブ
4月21日(日)。同京葉支部は粘
土で土器を作っておいたもの。そん
を干潟の流木とヨシで焼きました。
かまど用の穴作りが始め、かぬてか

ら集めて干してあった流木とヨシを燃した。
消火用の水は、メガカの池から汲んで来て
かなり注意を払ったという。
そしてその後は、とん汁を作って食べ、
あずま屋「いとしぎ」のヨシを刈った。

「オレは一日中、ゼルの立ち並ぶ都心
の建物の中で仕事をしているから、
休みの日に干潟に来て、こうして
ゴミ拾いや大工仕事、土を仕事
という体を使ったり、手作りのこ
とが好きなんだ。……結局、好きだ
からやってんだよ。んでまあ、こうし
てみると、オレ産にとって谷津干潟

ってえのは、大人のオモチャツみてえなもん
だよ。オレは、ボランティアなんて思っちゃいね
からさあ、……して。

写真上は、友の会の旗の竿。中は、鳥の
看板をかける脚立。下は、今度新たに
山形のアミの屋根の「いとしぎ」。



野外作業は、これからが本番ですよ。

この人達、私達のモニターでございます

ふがんど

第333号

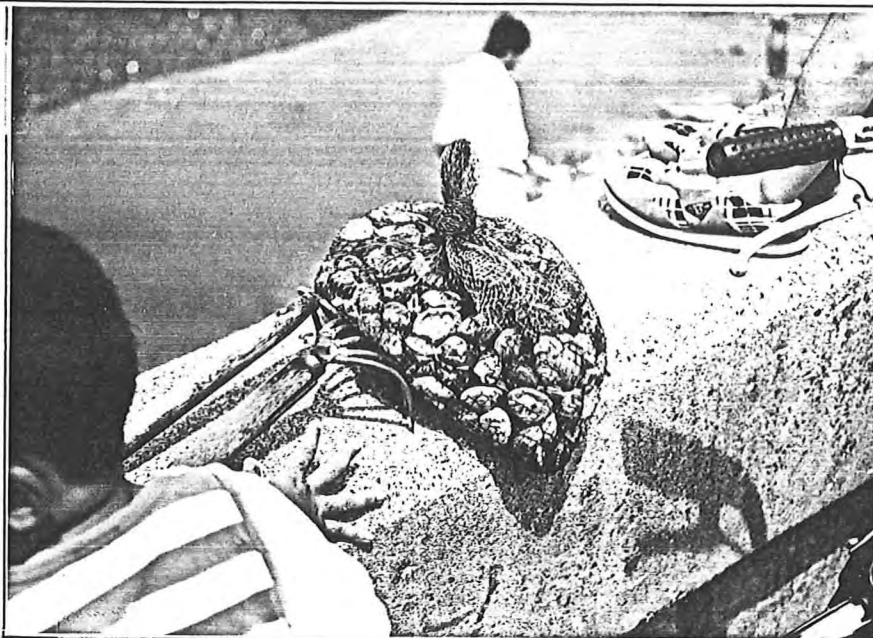
1985.6.6

谷津干潟愛護研究会
 〒275 習志野市谷津字七七 鷗荘E号
 電話〇四七四一五〇四四
 文責 森田三郎

会費 年2000

創立 1974.12.9

事務局 0474・517076 中村容子



よく取れました。昔からここに住んでいる。ほまーらよく見て下さい、このつぶぞりい。これはプロの取り方ですよ。

ロープやる巾梯子をちゃんと用意して来る。「父ちゃんしっかりして子供産。何と身軽なこと。更はこの人産、トビ職なのであります。」

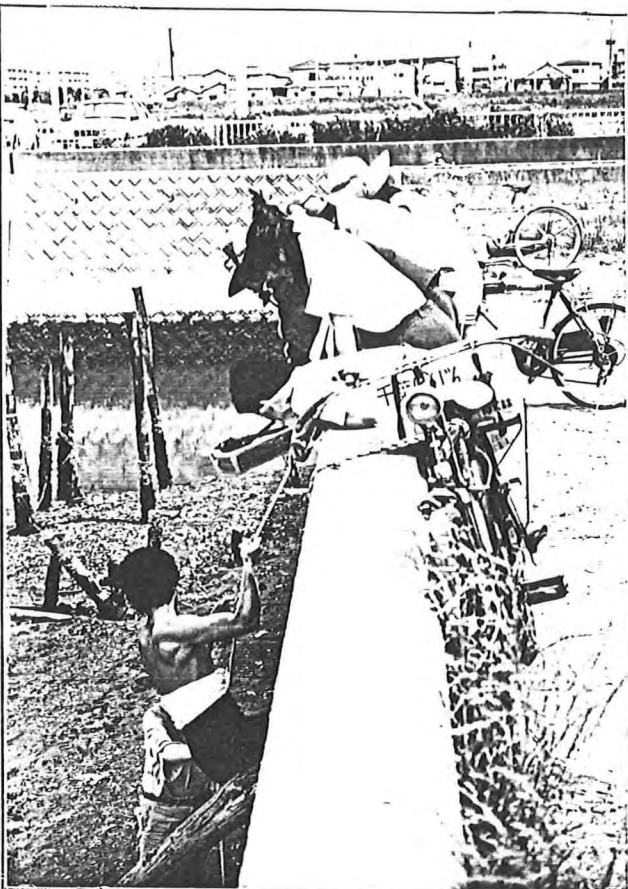
この頃、どんなそんですかあ

そんな調子で森田は、この人産と会うと近づき、言葉を交わす。

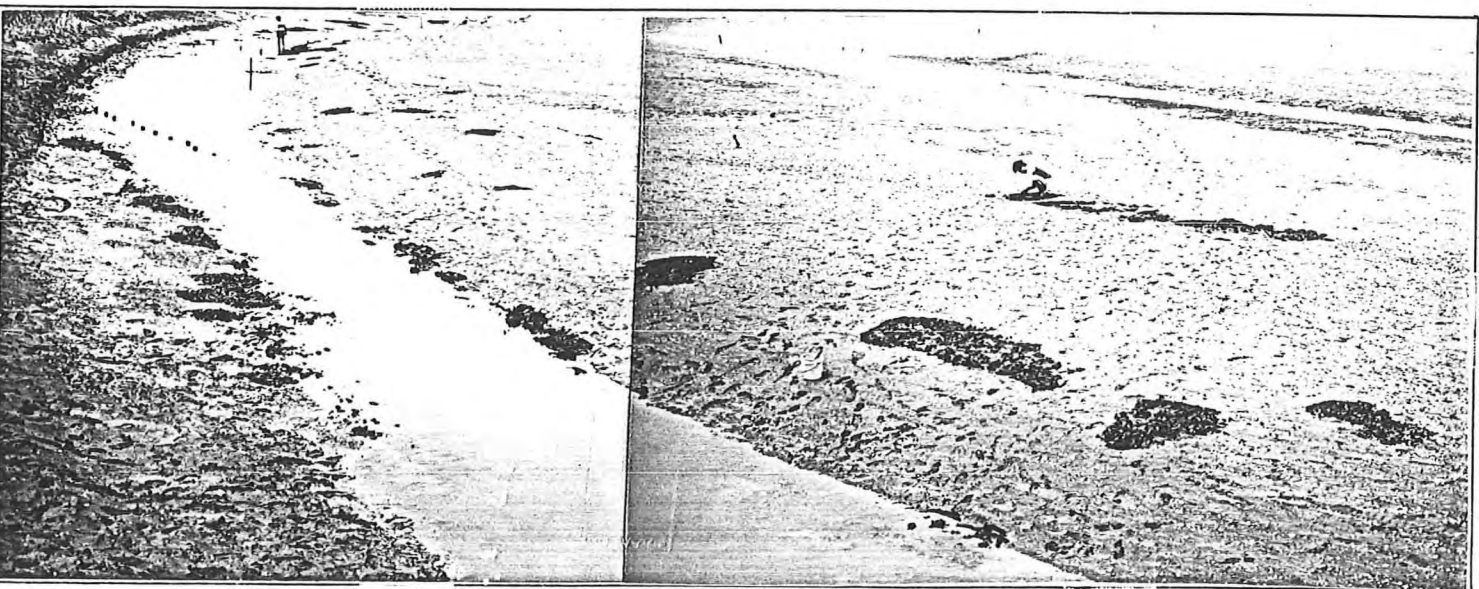
この人産、いつごろ人位でよく来る。仕事からちょっと見るとこゆさうだが、中々気持ちいい人。あだ。おとらぐ、谷津干潟を合め、この人産程よく来て、よく見ている人は殆んどいまい。私に水路のこと、よの出口と入り口の具合、潮や風のこと、魚やゴカイや貝、よーて鳥のことなどを話してくれる。

東は幕張から西の潮見町の海のこと。見たまま、接したままを教えてくれる。

「ふーん、さう、さうなの、じゃあ、ここんこはどんなですかつーと私。地の人たる彼らは、海が好きでとあり、私にとつとも素晴らしいモニターでもありますのすよ。」



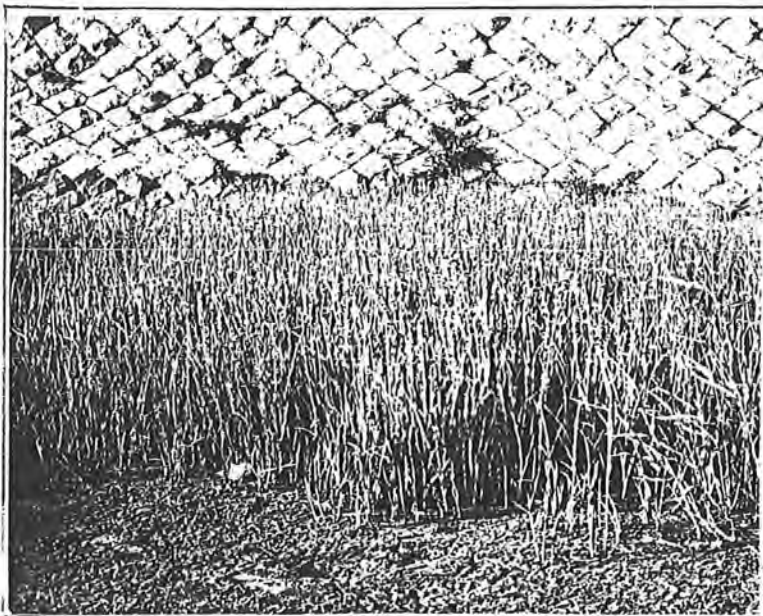
10年前。巾はメートル位の泥っぽい澤が、今は砂質のこんな大きな澤に。ここはさう、昔の干潟が出てしましました。



◎ この他の人産も登場して来ます



草は、イグサの一種
かと思ふ。
冬に干潟の水面や土
が凍ることがあるが、そ
外は南岸が殆んどで北
岸ではまが皆無です。
同じ干潟でと、毎日見
ていると面白いですよ。



約4週間の差がある

左の上下の子真、同じ日に、同じ草
を撮影したものの。上が南岸、下が北
岸です。

南岸は埋め立て地側で、北風をまよ
とに向け、堤防の為に数数時向太陽が

さえぎられる。それに対して下の子真
は谷津3丁目前の北岸で、堤防や人
家で北風がさえぎられ、一日中太陽があ
たっている。ヨシもその傾向にあり、特
に、チゴカニヤコメシキカニが穴から出
て来るのと、北岸の方がずっと早く、
約3週間と早くから姿を見せる。



谷津干潟自然緑地
のキノコ。海の砂と貝が
ラの所の上に。でと、4
種類をすでに見ている。



おや、タゲリ君。本
来は田んぼなんだが。め
ずらしくゴカイを食べに。
昨年3月と4月まで9羽。



アシ原にコケが生えた。
ここは、谷津3丁目前の
クリーン作戦モデル地区。
手作りの干潟からかな。

コアジサシと共に ①



幕張の人工海浜。いち早く生まれたシロチドリのヒナ3羽。所々にハマヒルガオが群生していて、巣は缶



ヤビニールのごみの中。右は遠くから、左は近くで。

1985年度 コアジサシ・シロチドリ・コチドリ繁殖調査

そこは、大規模な道路工事と橋梁工場現場の真只中であつた。四方をダンブ・ブル、ステアムハンマー、シヨベルカーが唸りをあげていたのであつた。

ふがんど

№334号

1985.6.10

谷津干潟愛護研究会
〒270 習志野市谷津千七七 鷗荘E号
電話〇四七四一五〇四四
大責 森田三郎

会費 年2000

創立 1974.12.9

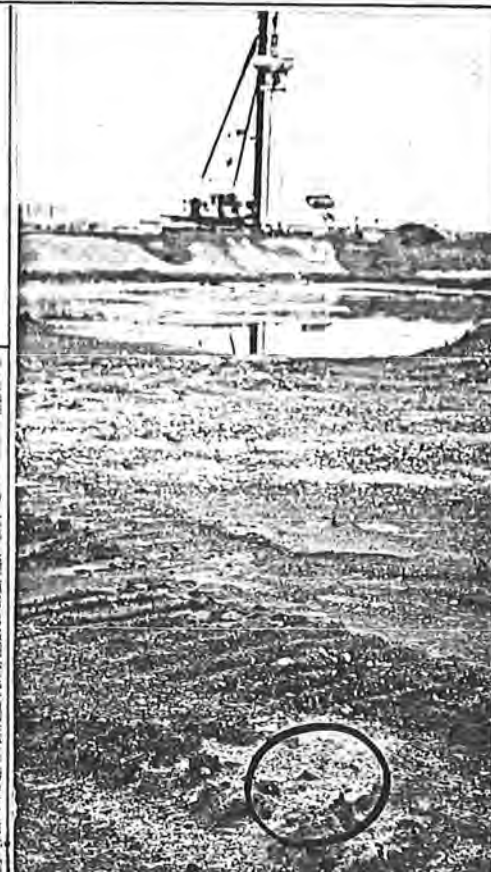
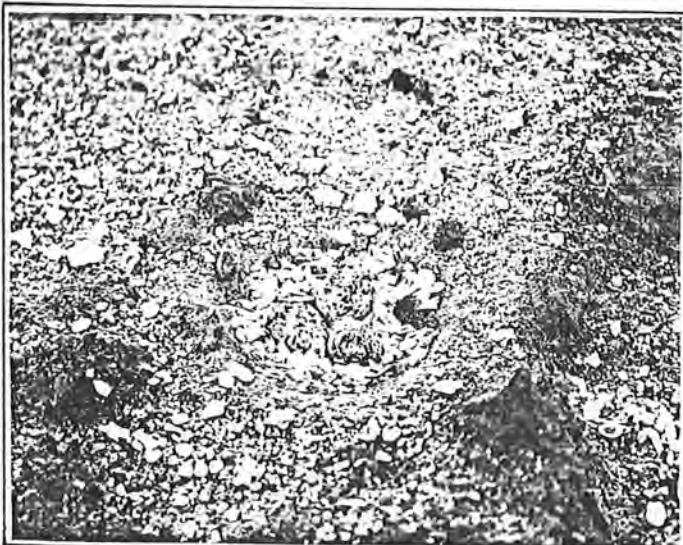
事務局 0474-517076 中村容子

个字真は調査中の中村さん

手の平の上で、死んだ振りをして目をつぶっているシロチドリ。

去年のコロニーで見つけたシロチドリの巣と卵。ブルドーザーのキャタピラーの跡に営巣していた。

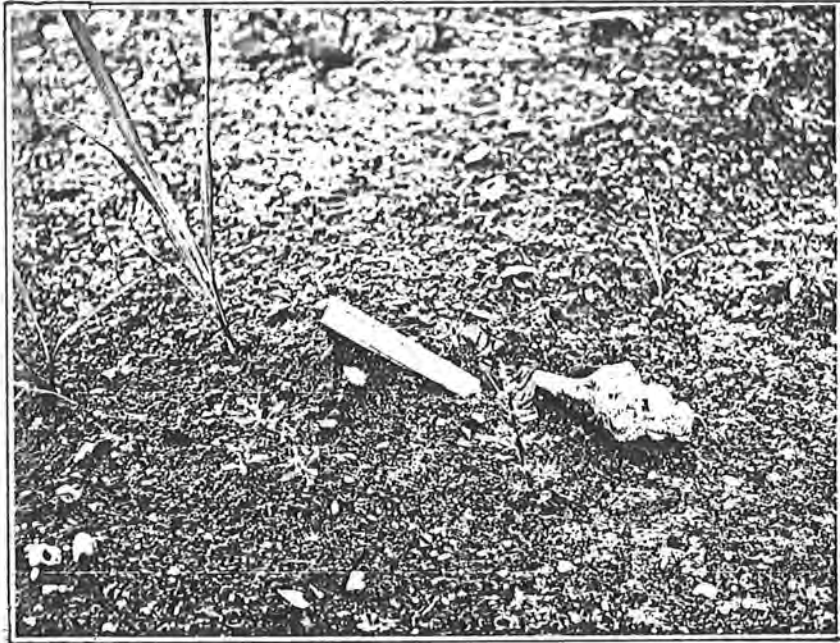
下の字真は、右のオから近づきながら写したもの。ふと見やると、近くで親が傷ついた振りをしていった。



11年目を迎えたこの調査。コロニーの生成と全盛、そして衰退してゆく姿を、その埋め立て地の移り変りをつぶさに見てきた。以前は3000ha、今年はずか3ha。とはヤッコロニーではない。それでもコアジサシ産は、去年の所に約40羽、人工海浜に約30羽来てはいる。

尚、同行の希望は中村、森田まで。

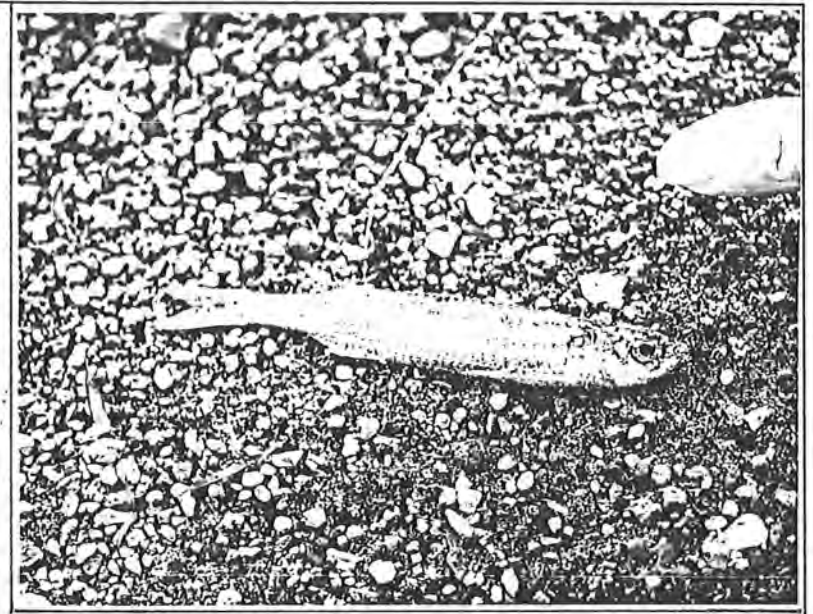
コアジサシと共に ②



おやっ、懐かしいなあ。去年の調査で、目印に使った棒。今までに、いったい何万本使ったかなあ。

それは、囁きか。うずきか。妖しいドラムの律動か。今年と又、あのコアジサシ達の季節がやって来た。埋め立て地の、あの夏の日々がやって来たのだ。
あぁ、懐かしいなあ。あの大砂塵か。夏の太陽で熱く焼けた、赤茶かたサンドパイプか。かげろうゆりめき、まぶしく光る何百もの貝がラムが。むっとす草いぎれや、土や水の匂い。でど、あの夏の日々はとう来ないのだ。

コロニーの呼び声

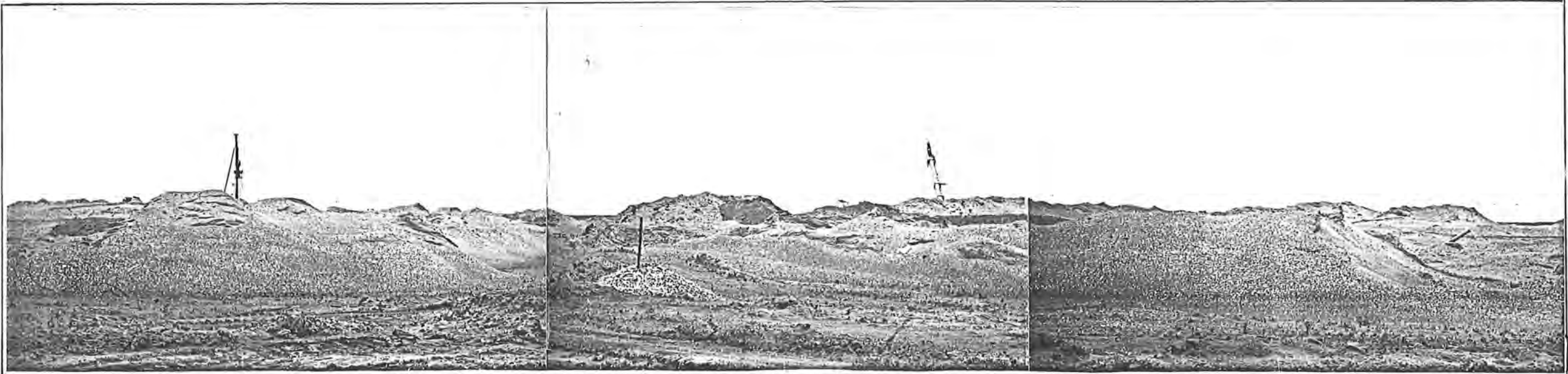


去年のコロニーの所で今年見つけたコアジサシのエサ、トウゴロウイワシ。こんなふうにしてよく営巣地に落ちている。エサは今まで13種確認。

営巣地のまわりの砂山。このまんま放っておいてくれば、雨や

風でとってよい感じの砂丘になるんだが。巣は、50m x 50m 程の、

ネコの額みたいな所。そこしかない。まわりはぐるりと芋真の如く囲まれている。



ふかんど

ネ335号

1985.6.13

事務局 0474-51-7076 中村容子

谷津干潟愛護研究会

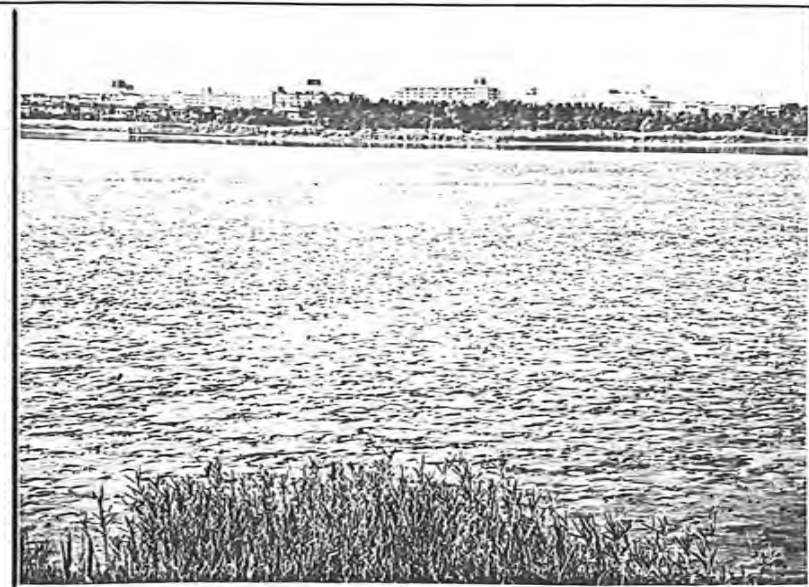
〒275 習志野市谷津三七七 鷗荘E号
電話 0474-51-5044

文責 森田三郎

会費 年2000

創立 1974.12.9

遠くから見ると、ちやうど耕された畑を見るようです。



写真の場所は、あずま屋「いそしぎ」から50メートル程船橋寄りから撮ったものです。上の写真のように、小さな無数のデコボコがあるのは、ヤマトオサガニというカニが穴を掘っている為にそう見えるのです。6、7年前には、このカニの群の範囲が今より50〜70メートル後退していました。上の写真が良くて、下の写真が悪い。平らでのっぺらぼうでしょう。

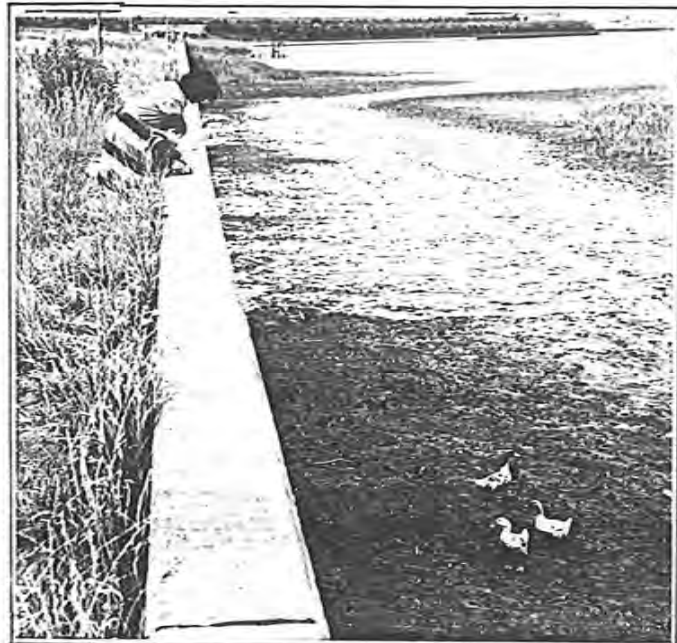


平和な谷津干潟のシンボルにー
今度は放巧します

皆さん、谷津干潟に住みついてしまったアヒル産が、再び卵を

産みました。同じ所です。今、いっしょうけんめいに抱いています。先日、ビニールや釣り糸を清掃している時に見つけました。カモなどが近づくと親が追いかけています。でこの巣、かゆいようにビニールをいっぱい使っていますよ。

巣の直径は40cm位



↑この母子連中は毎日アヒルにパンを投げに来ているのです。

アヒルの巣。↓カモに似ている。卵の数は13個。でどカモより雑です。





調査しながら潮干狩

ここは、習志野市芝園と境を接する「まくはりの浜」です。
コアジサシやシロチドリが、まとまった数で営巣するのは初めてです。

会員の五十嵐吉夫氏の話しでは、去年、船橋市の人工海浜でコアジサシが数つがい営巣したとのこと。
この日、五十嵐、中村、森田は、バカ貝、マテガイ、シオフキをとりました。

私産の頭上を、たくさんのコアジサシが飛んでいるのです。



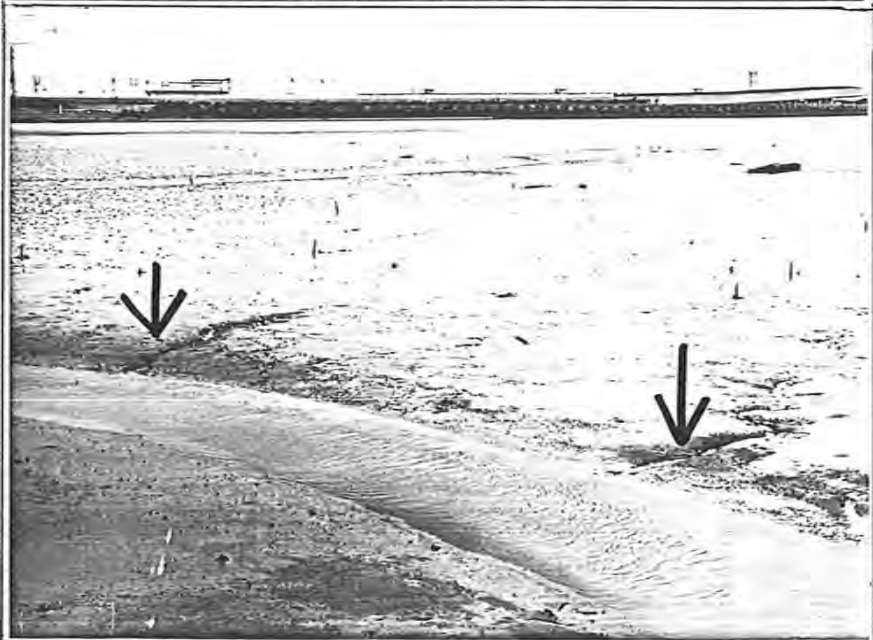
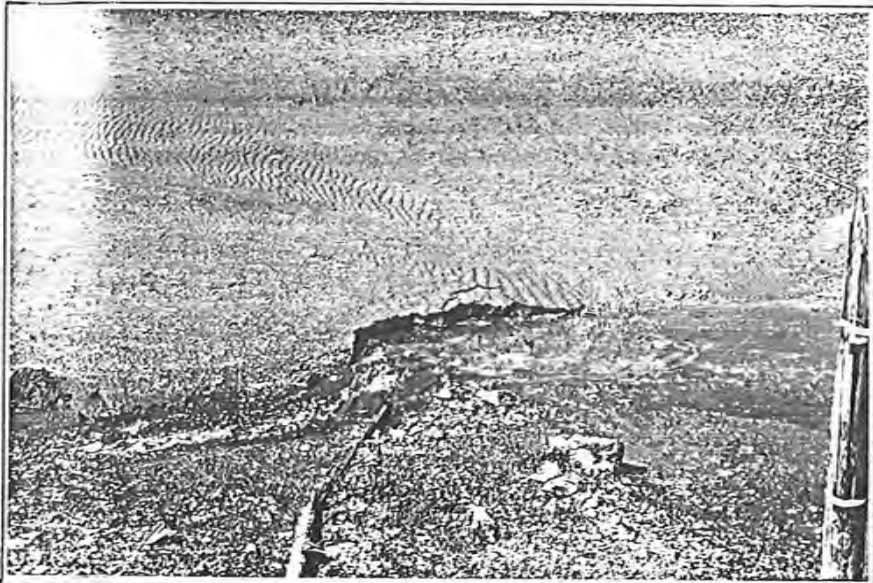
企業庁には連絡しなかった。タクシーで走ると、どこの畑もニンジンでいっぱい。きっと、年間賃はおろか、箱代にもならないのだろう。こういう「ニンジン山」が、干潟近くの草むらに20以上もある。勿体ないからと中村さん。拾って近所に配った。



つい先日、ゴミを捨てたな、と思われ、車を見た。走り去る車のナンバーを控え、その現場へ行ってみた。もしたら、ごうんの

ようなニンジン山の。そう言えば、車と人は農家らしくなかった。今年は豊作で「出荷調整」なんです。

こうして、ドロが削られていっています



あたかともそれは、アメーバーのように、
蝕角のよつに出来ていくのです。

巾20cm位の小さなミオですが、潮の
干満のたび水がちょろちょろ流れる。
そしてその下に三角州のようにドロがたまる。



干潟の中へ入って、潟スキ
ーで滑って確認しました

まわりの護岸から見てとわかり
ますが、以前からあったミオが深く、か
つ大きくなっていきます。又、いくつかの
ミオが、それぞれ大小共々出来つつありま

す。そして干潟全体いたる所で。
皆さん、遠くから見ると、干潟が平
らなように見えるでしょう。ところが
そうじゃなくて、意外とでこぼこなん
ですよ。水の中、浅い所を滑って行く
と、潟スキが「ホコン」と引っくり返え
る時があります。

ふがんど

オ336号

1985.6.19

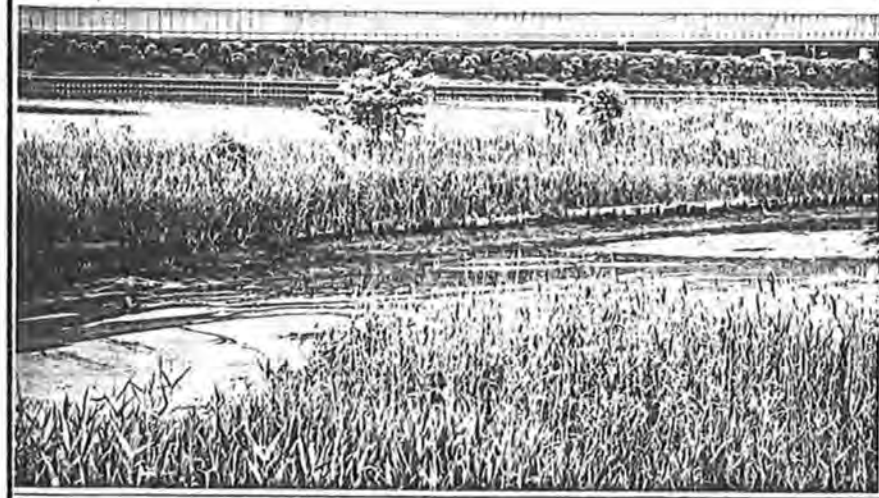
谷津干潟愛護研究会
〒275 習志野市谷津三十七 鷗荘E号
電話〇四七四一五〇四四
文責 森田 三郎

会費 年2000
創 立
1974.12.9

事務局 0474-517076 中村容子

中土手と呼ばれる所に、いつしか木が育ってしまいました。大潮や台風で塩水の為、枯れてしまうと心配していたが、

ボートが流れ着きました。強化プラスチック製で、長さワメートル位。使いたいのですが、置き場がなくなって。



谷津干潟には、よく珍らしいことや変わったことが起り、そして見られます。

毎日干潟に行って、よく歩き、よく観察すると、そこはそこで、また一つの世界があるんですよね。



貝ガラを敷かないのは

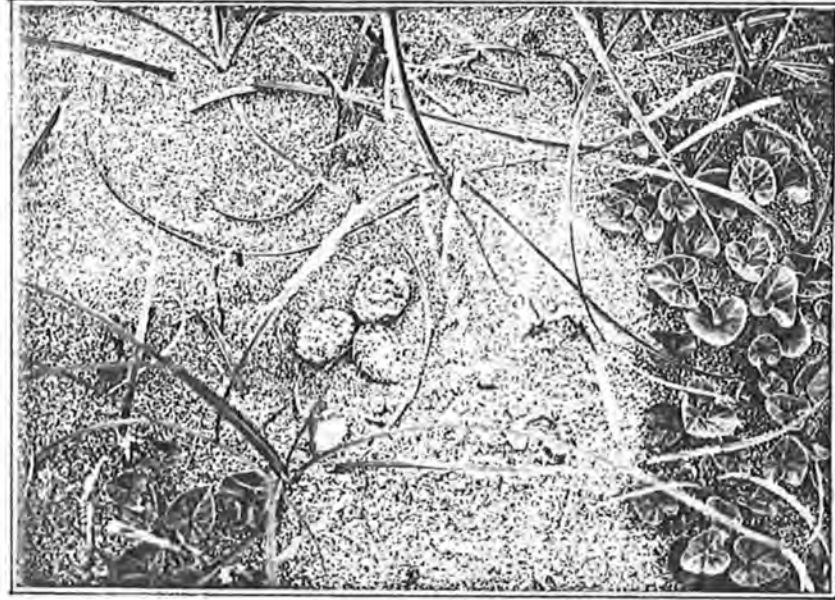
珍らしい

と言ってよい程なかつたのです。

過去10年、何万という巣を見てきましたか、今年のまくはりの浜のように、貝ガラを敷かない巣は全く

草のある所は余り好みません。でも、まくはりの浜では、ハマヒルガオなどの生えている所にも、多数営巣する。

コアジサシ、ミロチドリ、コチドリ共、



卵の色などは、まわりの地面の色に似合わせようなどのが多く見られる。巣とよんで、貝ガラが多し地面の所は、やはり多く敷く。
ギツとまくはりの浜は、砂だけを持ちきて作った所だからだろう。



なりは小さくたって

皆んなが帰ったその後

ふかんど

337号

1985.6.24

谷津干潟愛護研究会
 〒25 習志野市谷津三十七 郵便E号
 電話〇四七四一五〇四四
 文責 本田三郎

会費 年2000

創立
1974.12.9

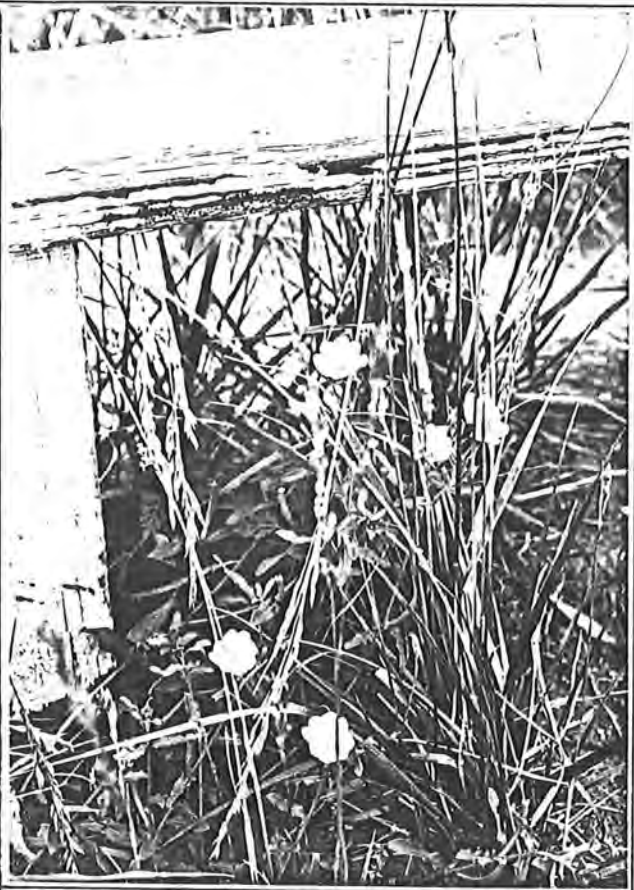
事務局 0474-517076 中村容子

昼間、カニ取りやバードウォッチング、そして砂遊びや水遊びであれ程にぎやかだった干潟は、今、どう誰

ともいません。

そういう時、月見草（マツヨイグサ）の独り舞台になるのです。この季節、干潟のまわりや埋め立て地は夕方近くになると、あちこちで月見草が唼（は）いています。流木で作られたテーブルやベンチのそばにと、毎日その簡素な花が見られます。

今日と干潟で、私産は唼（は）い作業をしました。体を洗って着替え、ほっとしながら、月見草、ありがとう。



がんばってききました

ホンダライフ79年型。走行距離16万2000Km。雨漏りはすすし、中でタバコを吸っても、スキ缶だらけで煙が立ちこめない。去年の秋には車の中でコオロギが鳴っていた。

車の面倒を見てもらっている京葉ホンダ社長の小林大光氏からは、「森田さん、エンジンとラジエターと取り代えたけど、車体がどうかたくくだよ、今度の車検であきらめてくれ（12月）」

と言われている。今まで、部分が多メになるたびに、廃車の中から従業員に言いつけて捜し出して来ていた。今日と、干潟の作業で使う道具をいっぱい積んでガタ／＼と走っている。





遠方の建物は、習志野市のゴミ焼却場。もしここを、人の立ち入りを制限したなら、500匹く営巣するだろう。

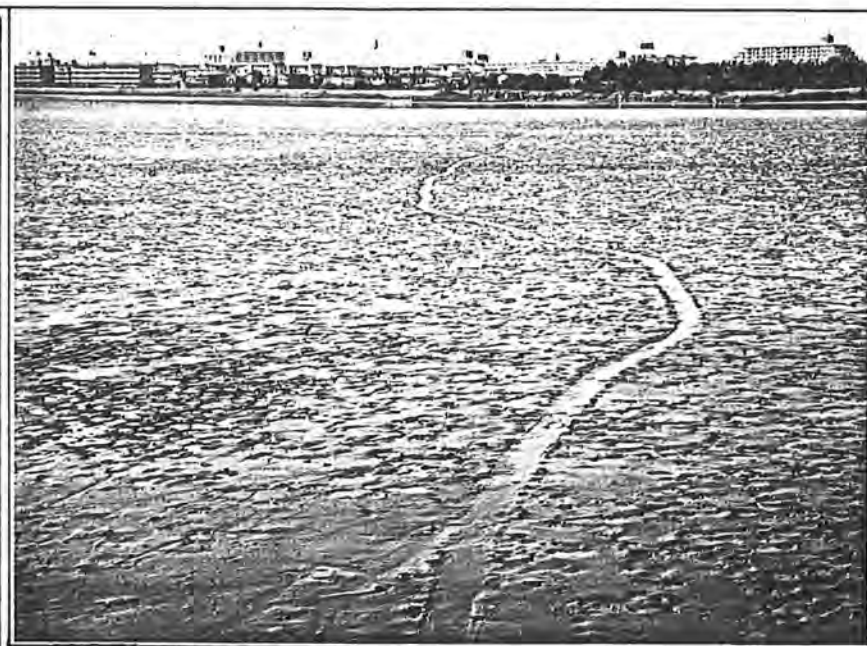


イブから土砂が吐き出されていた。しかし、調査の結果、かなりの数の巣が貝を取りに来た人によって荒らされていくのがわかった。

ハマヒルガオの咲く丘に

いよくコアジサシ、シロチドリ、コチドリ達は、海の方へ、波打ち際まで追いつめられたようだ。

ハマヒルガオやコウボウムギが群生す



7日~10日近く通らないと、波やカニの穴掘りの為、跡形と無く消えてしまう。

鳥スキークの発進基地は、干潟の南岸、「バンブーハウス」の前である。

このシュプールを通過して、鳥スキークはゴミという、獲物を求めて、谷津干潟の北側、そして東へ西へと向ってゆく。そして水の中、さまざまうようにしてあちこちと滑りまわりゴミを捨てる。ゴミ袋は一航海二袋程で足りる。その他は大きなゴミであるタイヤ、シート、というものを積んでくるので重さは30~50kgになる。袋は余分にソフトを持っていくが、それは、湾岸道路側と旧遊園側と津田高側の、荷揚げ場にと寄港する為である。2km程滑ってきては、ヌメの道を通って帰ってくる。いりスポーツである。

今年とやっぱり... 旧遊園地前の干潟はトビハゼだらけ

ふかんど

ネ338号

1985.6.27

谷津干潟愛護研究会
 〒275 習志野市谷津三七七 鷗荘E号
 電話〇四七四一五二一五〇四四
 文責 森田 三郎

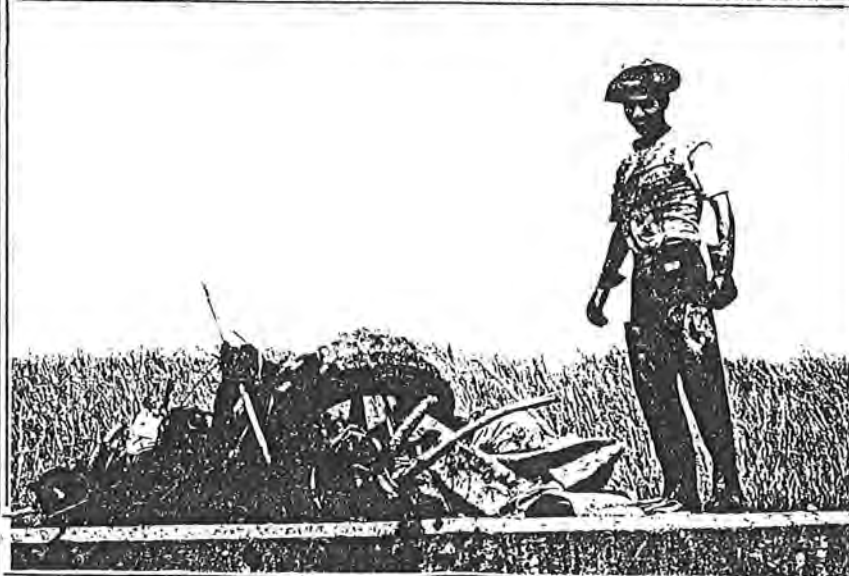
会費年2000

創立
1974.12.9

事務局0474・517076 中村容子

堤防のすぐ下か、彼らの絶好のす
 み家である。歩く足もとから、何匹
 とのトビハゼがびよ／＼とはゆまゆ
 るのが手に取るように見える。あるい
 はエラでちよ／＼と歩いてくる。水
 の所では、三段とびのように飛んで逃

げてゆくのである。
 谷津干潟では、ここが最と、そと左
 側のに多い。生命力の旺盛な彼らは、
 ゴミをその生活の一部に取り入れて
 しまふ。則ち、身を隠し、卵を産み、稚
 魚が外敵から身を守り育てる為に。

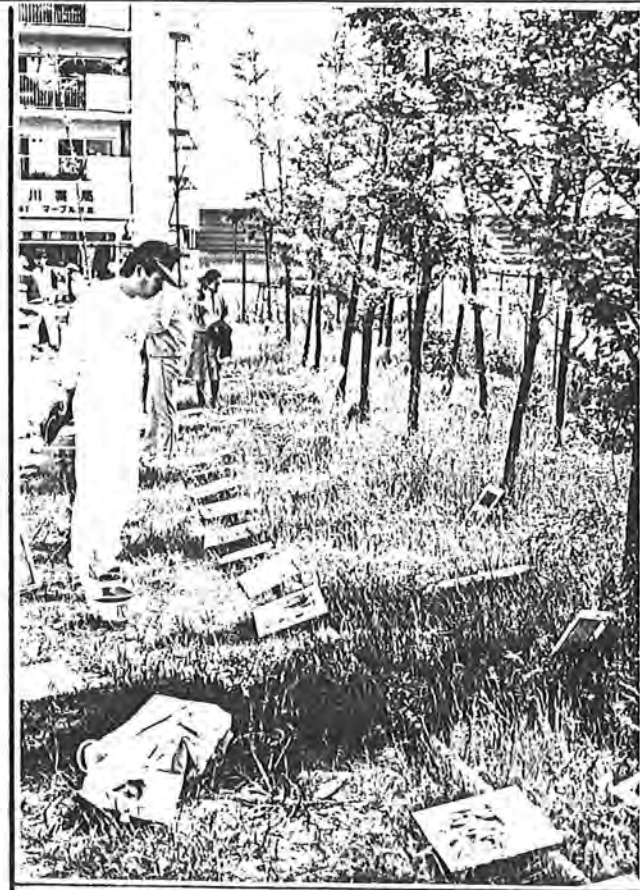


ハシボンミズナギドリであ
 る。クリーン作戦の時、谷津
 干潟で死体を9羽見つけた。
 外洋性の渡り鳥である。
 皆、外傷は多い。先月、秋津
 の主婦から、「空から落ち
 て来た」との連絡があった。
 芝園、茜浜、幕張の海岸に
 たゞさん死んでいた。時々、
 谷津干潟に救助飛んでいる。
 渡った所にエサがなくて...



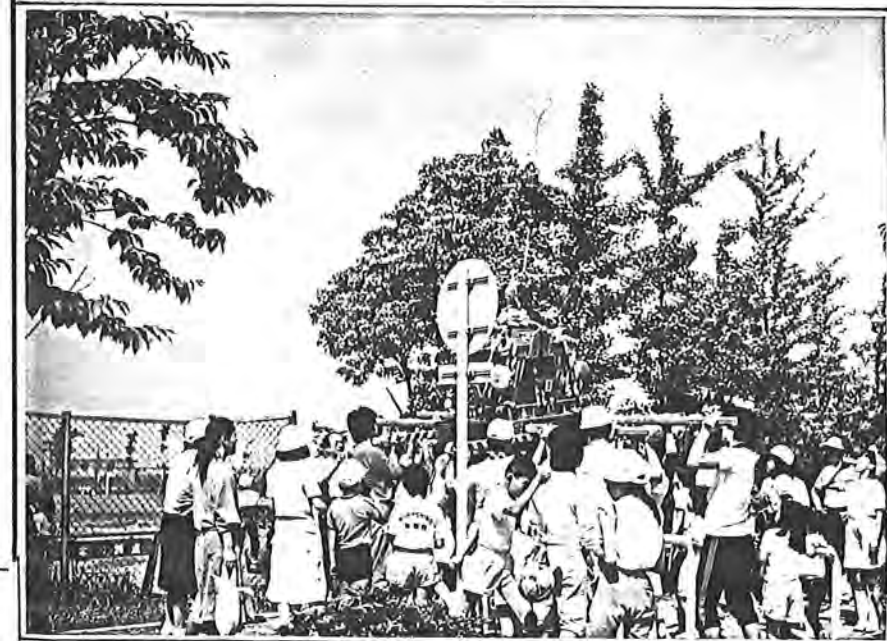
たくさんの方が見てくれた

6月2日(日)。袖ヶ浦の人産といっしよにゴミゼロ運動に参加しました。町会から依頼さん、中央会場の津



田津高校のグラウンドの草ムラに、投げ出すようにして展示したのです。

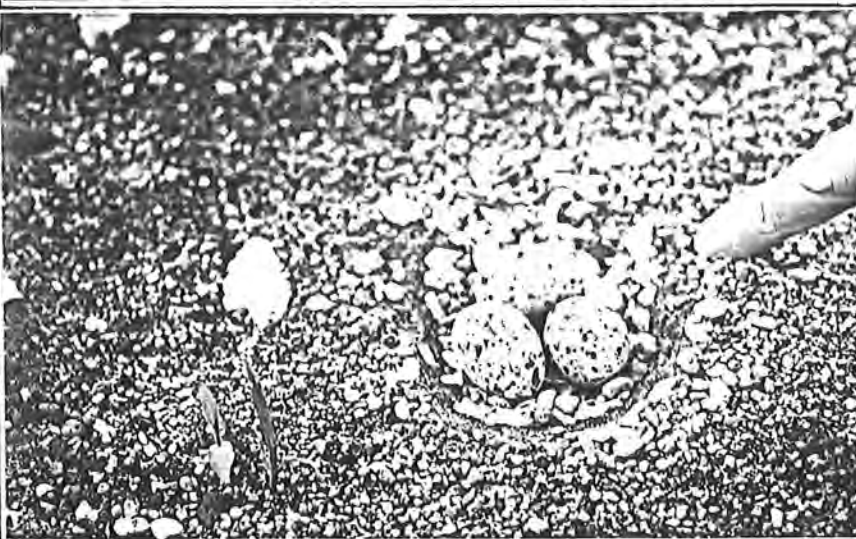
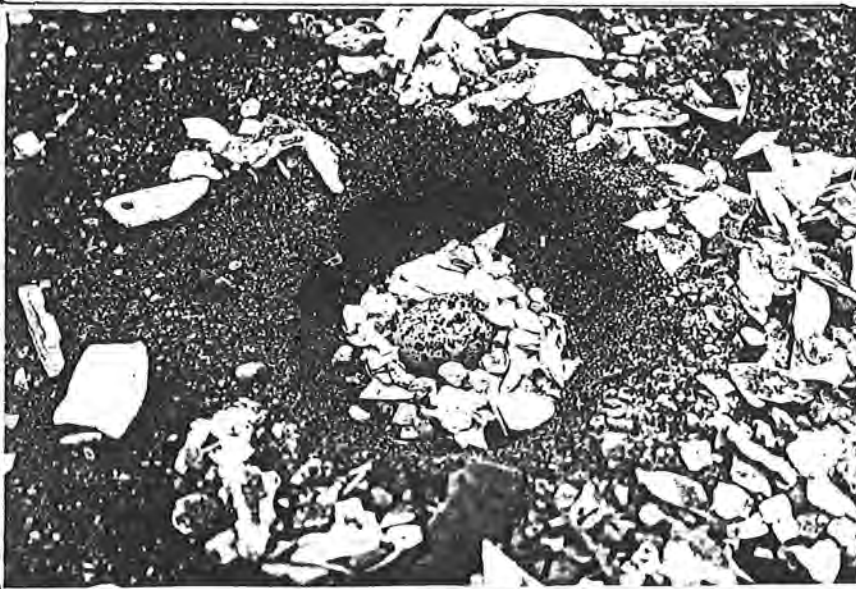
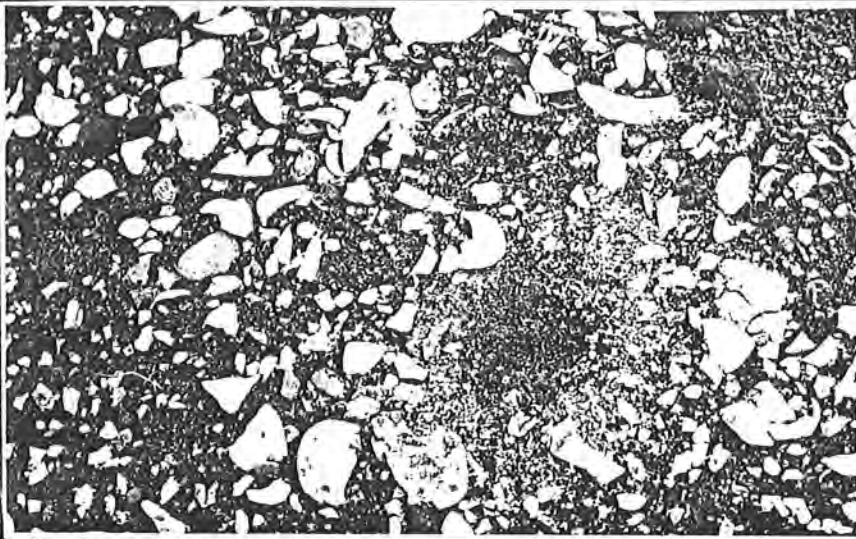
子真は千葉の干潟を守る会(20枚)、私産が(60枚)。でと、用意が大変。



巣づくりー穴掘り

コアジサシ・シロチドリ・コチドリは、直径7cm~10cm位のお巾形の穴を掘る。3種とも大体同じように作っている。でと、そのうちにも個

体差みたいなどのがあって、穴の大きさまや深さ、貝ガラの敷き具合や貝の多或少ないは千差万別である。穴を掘ったからといって、必ずしと卵をそこに産むわけではない。ただ掘ってあるのを空巣(からす)といっつ。特に朝方は、その跡が奥にさわやかだ。



やがては、フラワーウォッチングを...

ふかんど

オ339号

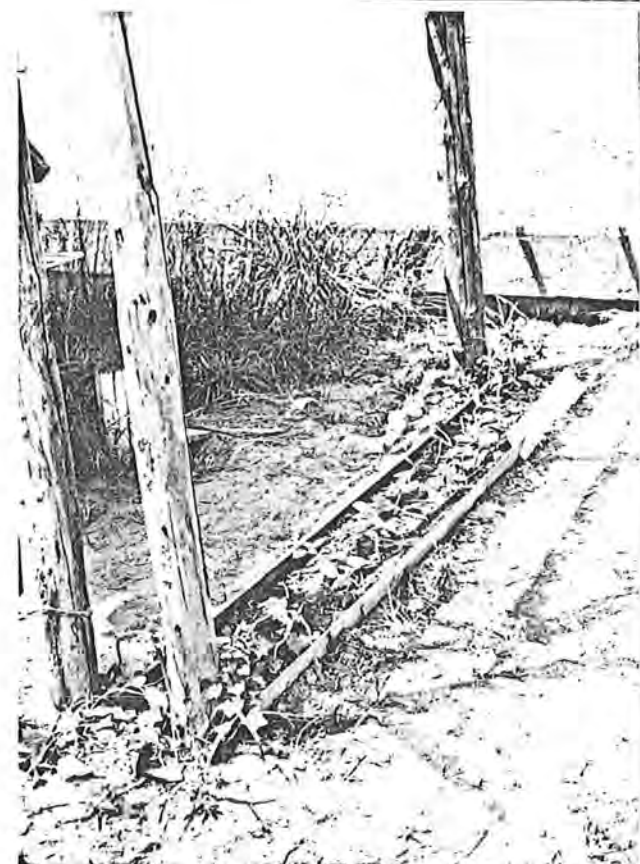
1985.6.29

谷津干潟愛護研究会
 〒276 習志野市谷津三七七 鷗荘E号
 電話〇四七四一五〇四四
 文責 木林田三郎

会費年2000

創立
1974.12.9

事務局0474-517076 中村容子



「谷津干潟花壇」

これは夢ですが、やがて、緩衝緑地を含め、季節折りに、草花をを観察出来るようにしたいのですね。

いろんな制約もありましようが、その中で、何とか自分達で出来ることをしたいという人、けっこういるんじゃないでしょうか。わずかな、ささやかな努力の集大成。そんな谷津干潟にしましようよ。

写真右上は、あずま屋「いそぎ」の柱の根本にアイビーを植える中村さん。その下は、やがてカボチャの棚を作るんだと、野村さんが植えました。

写真左上は、去年から何くわちやまわてしまおうからと、角材を拾って来てワクを作り、コスモスとヒマワリを植えている。写真中は森田が、下は長塚さんの奥さんが提供したものです。



皆さんの家に、何か有りましたら、持って来て植えて下さいよ。

土と鳥の風土

<38>

君たちの顔は充分たたいこの
かい。(後略)

三好 洋

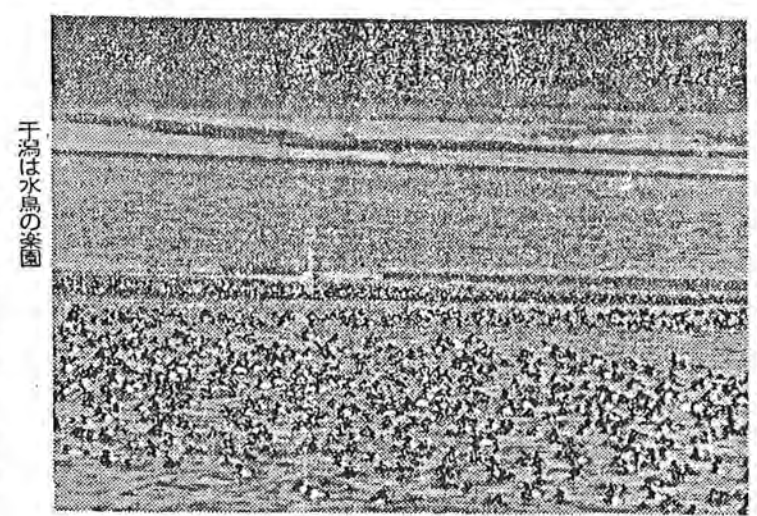
水と陸地の接点。
草が陸地と生えている。
吹きたまひは白い舗装道路で
人と車の自由な進入路である。
(中略)
渡り鳥よ。
電線が張りめぐらしてあるの
で
脚をとられぬように気をしつ
な。

干潟の水鳥たち

砂原の中にはオキシダントが
あるので
君たち吸ってほならないよ。
冬に入る前にしては低く
黄昏は早くくるので迷っては
ならないよ。
冷い北の風が
はるはるやってきた君たち。
明るいうるまでを待たせて
小さい体
ひたむきな生命をほりきらせ
て。
入江に土層はまたいるかい。
小瓶も壊れているかい。
汚れ切ったと泥の中に

干潟は東京湾の奥にある泥
質干潟が埋め立てられずに残
されたものである。二本の
水路によって東京湾とつなが
り、湖の干潟に応じて、海水
が入りやす。周囲約五、六
面積三分の二が、一部は
アシ原、陸地化しているが、
他の部分は満潮時に水面下に
かくれ、ヤマトオサガニ、コ
谷津遊園の湖干狩り場であ
る。多種の水鳥が認められ
る。種類数は春秋の渡りの季
節に多く、冬季に多数の鳥が
越冬している。
京葉臨海地帯は遠浅で土地
造成には条件がいい。浦安か
ら富津までほとんどが埋め立
てられたが、谷津地帯だけは
残された。最近隣園となった
谷津遊園の湖干狩り場であ
る。

五二〇種の半数の二六〇種以
上が行徳で記録されている。
しかし埋め立てがすすみ、周
辺が住宅地、工場地帯として
開発がすすむにつれ、水鳥の
生息地としての価値が圧迫さ
れてきた。鳥類愛好家や自然
保護団体からの要望にこたえ
て、鴨場を含めた約八三三を
「首都圏近郊緑地保全法」に
よき潮の時はこれらが干潟の上
に残され、干潟は陸上七海か
らのいろいろな物質の吹きた
まりになる。上げ潮の時に干
潟に勢いよく流れこむ海水に



干潟は水鳥の楽園

より「行徳近郊緑地特別保全
地区」に指定し、干潟や潮地
を造成し、昭和五十四年には
鴨場等を除いた区域を興行
徳鳥獣保護区として保護の対象
とした。長年の懸案の谷津干
潟も、環境庁が鳥獣保護区を
設定することになり、干潟と
東京湾をむすぶ水路も河川法
にもとづいた管理によって行
うことになり、保護の見通し
がたった。
干潟は野鳥の天国であるが
かりでなく、陸と海の環境浄

は空気中の酸素がいっぱいと
れており、さげ潮の時には空
気が肥のすまみに入りこむ。
そして太陽はさんさんとより
カイのような底生動物を餌と
そそぐ。有機物と栄養分と酸
素と光が十分であれば、バク
テリアや藻類のような微生物
が干潟の表面に繁殖する。こ
れを餌にしてカイイのよう
な土中の動物(底生動物)
が育つ。シキヤチドリはコ
カイのような底生動物を餌と
する。

埋め立て地のヨシ野には、あち
こちでカルガモが巣を作る。
毎年のことではあるが、必ずヒ
ナを連れだしたカルガモの親子を見
る。巣は、去年の枯れ草と今年の
草が混在していて、余り背の高
くない、又、余り生り茂ってないよう
なヨシ野、草地である。

巣は直径30cm位で、枯れ草や
チガヤの穂、そして羽毛を使う。
卵は10しは個。ニワトリ大であ
る。ヒナの頃は10羽前後いるが、
成長する向、いろんな外敵の為、
無事飛べずのはころろ羽しかない。
人間や野犬に遇った時、ヒナか
う遠ざける為には擬傷をさする。



水の上を歩くんだか、その速いこと!



このように干潟は、微生物
コカイ、カニ、水鳥などの食
物連鎖という連鎖ナレイによ
り日本の海と陸を浄化する。
しかし干潟もよごれすぎると、
微生物も、コカイも、カ
ニも生存できず、水鳥もあ
りつかなくなる。こうなると干
潟は死んで機能を果たさな
くなり、浄化の役に立たない。
美しい鳥の園のために、干潟を
いつまでも美しく生かしてお
かなければならぬ。

(元千葉農業試験場長)

千葉日報
昭和60年6月22日

干潟の子宮 = 問題と答えと、それは干潟の中だ =

ふかんど

第340号

1985.6.30

谷津干潟愛護研究会
 〒275 習志野市谷津三丁目七番地E号
 電話〇四七四一五〇四四
 文責 森田三郎

会費 年2000

創立 1974.12.9

事務局 0474・517076 中村容子

生きざの達の揺籃の地

海にとって、干潟や遠浅の海は正しく「子宮」なのです。

まだ私が少年の頃、谷津干潟が「ふかんど」と呼ばれ、トビウオや大きなカメ、タツノオトシゴやサヨリが手づかみで取っていた頃。「藻場」と言って海藻がジヤングルのように生い茂っている所がありました。

そこを歩いて行くと、腹や脚に海藻がからみついていたりつかえてしまいました。そんな時、「よあーいしょっ」とばかりに海藻を両手いっぱい抱えて来て、干潟の上へドサツとほおり出すと、中から魚やカニがパチパチと音を立ててとび出てきたのです。「わあ、やったあ、いんどあー」とばかりに、子犬のように喜んで私は、つかまえにかかったのです。そして、海藻を腰に巻き着け、声を上げては「土人ごっこ」をやっていました。

今にしてわかったのですが、奥にその藻場こそ、カニや魚の、恰好の産卵の場、成育の場だったので。

しかし、埋め立てと共に、藻場はいち早く消滅し、やがてそれが、東京湾漁業、漁師産の意気を根底から崩さしめていったのでした。

今、谷津干潟にあつて

ヨシ野や水辺の草、その中の潮溜りや流木の陰、堤防のスキ間や石垣のそばこそ、カニやハゼ、そしてゴカイやヤドカリ産の産卵場であり、赤ん坊産の育つ所となつて居るのです。

クリーン作戦の時、ヨシ野の中に入つていたり流木をどかすと、魚やカニの赤ん坊がうじゃうじゃと居るのです。

外敵から守られ、風や波も来ないところ、谷津干潟の子宮なのです。自立たない、人の注意をひかない、暗くていじめられた所が、干潟を支えています。

埋め立て地がわにあるここは、昭和51年の春より、ゴミを完全に拾い上げ、次に砂を入りたり撒いたりして、最後にヨシの植え付けで造ってきた所です。それまでは全くのヘドロ状で、無生物状態だった。夏になると赤や緑に腐り、悪臭を放っていた。

さて、次はどこを手掛けようかな。

長さ200m程の所で、試行錯誤的にヨシ野と干潟を造ってきたが、結果は想像よりはるかに良かった。



去る2月22日(土)。長塚氏と森田の両名は、初めて公団の方々と会った。その時、次の二つの事をお願いした。①緑地帯は、干潟と住宅地が双方に「悪影響」を及ぼさないうよう、希望としては巾30m位欲しい。②何とか長年の夢である、干潟を一周出来る道があんばと。

その後、市と公団から、巾15mの緑地帯では、この巨目が示された。



埋め立て工事の名残

かつて、この水柱として、この上に長い、沖から続くサンドパイプが走っていた。そして、あちこちで海水と共に、海底の土砂を唼りをあげて吹き出していた。直径70cmのサンドパイプに近ず

土砂を吹き出している頃から、草がは始めるまでの間、シギ・チドリが最も来るのだ。

団地計画説明会が紛糾

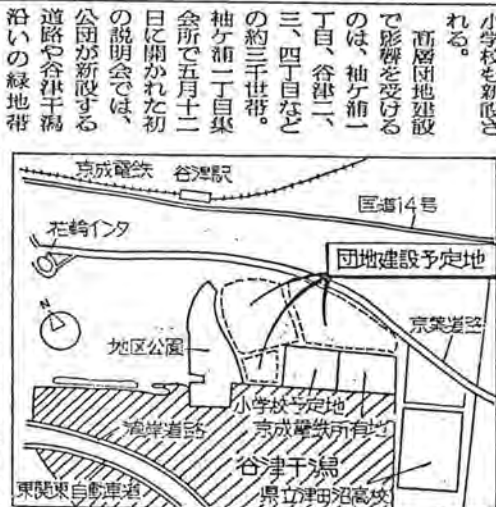
谷津遊園跡地 住都公団の大型事業

新設道路や野鳥保護... 地元民納得せず

首都圏に残った数少ない大型宅地開発事業として住宅・都市整備公団が習志野市谷津三丁目谷津遊園跡地に建設を予定している高層団地計画についての第二回地元説明会が二十六日、同市袖ヶ浦二丁目集会所で開かれた。住民ら約五十人が出席したが、公団側が示した新設道路や緑地帯の計画について住民や自然保護団体が強く反対し紛糾した。これまでは、「今年三月着工」とされていたが、計画をめぐっては高層建築による日照権、ビル風、電波障害のほか、野鳥の楽園「谷津干潟」への影響などの問題についても解決しておらず、着工は大幅に遅れる見通しになった。

着工は大幅に遅れ?

この事業は、「谷津三丁目Kから4LDKまで二千三百戸地(仮称)計画で、谷津遊園跡地の二十・三段に建設される。五十四階建てで、2LD見込んでおり、団地の南側には小学校も新設される。



高層団地建設で影響を受けるのは、袖ヶ浦一丁目、谷津二丁目、谷津三丁目、四丁目などの約三千世帯。袖ヶ浦二丁目集会所で五月十二日に開かれた初の説明会では、公団が新設する道路や谷津干潟沿いの緑地帯(幅四m)について計画案を提示。これに対し住民側は「交通安全対策上で問題があるし、不便な道路だ。野鳥を保護するためには三十層の緑地帯が必要」と反発、五項目について計画の検討を求めた。

この日の第二回説明会では、公団が前回と同じ案を示したため、住民からは「二週間待った」と、団地計画を住民に説明する住宅・都市整備公団の職員、習志野市袖ヶ浦二丁目

のに、我々の要望が採り入れられておらず誠意がない」「用地のすぐ北側には京葉道路がある。団地建設による日照時間や風圧の変化のほか、排ガスや騒音についても詳しく調べてほしい」と反発する意見が相次ぎ、平行線のままだった。

結局、住民側は公団に対し、①十四階建てを低くして周囲への影響を少なくしてほしい②干潟の野鳥を保護し、人が散策できる緑地帯の確保③住民の要望に沿った道路を設けてほしい、などを再検討するよう申し入れ、四週間後に第三回の説明会が開かれることになった。

と、ガラ／＼、ビシ／＼と貝カラのころか／＼と来る音。ゾー／＼、ザア／＼と砂や泥の走る音が、交互に入り乱れる頃えたものである。

どす黒い海水を外へ流し出しながら、約6ヶ月で土地が作り出れる。所々に大小の水溜りを残して、乾燥してりと、貝カラと砂の、広大な砂漠のような所が出来て、コロニーが形成される。